

SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS

AUGUST
2026

8

昭和医科大学新聞 通巻 第632号
(偶数月発行)

第16回 学祖祭を挙行

学生生活 クラブ活動優秀成績



昭和医科大学
SHOWA Medical University

642名が出席し盛況を博する 学祖祭で48名の優秀者を表彰



1 会場の様子
2 挨拶：上條由美学長
3 表彰
4 理事長講演の様子
5 演奏：メディカルオールスターズ (MAS)
6 演舞：応援指導部

昭和医科大学上條奨学賞

上條奨学賞は、学術上有益な研究課題に取り組み業績を挙げた職員、教育実践上の課題に取り組み、功績を挙げた職員を対象として、表彰するものである。令和8年度は以下の職員が表彰された。

研究業績部門			教育功績部門		
研究科	課題	受賞者	学部	課題	受賞者
医学研究科	大腸内視鏡と人工知能の臨床応用	消化器内科学分野 准教授 三澤 将史	医学部	学修と学生生活を一体で支援する包括的支援体制の構築	生理学講座生体制御学部門 教授 砂川 正隆
歯学研究科	骨の修復・再生メカニズムの解明	歯科薬理学分野 講師 畔津 佑季	歯学部	バーチャルベシエントを用いたシミュレーション教育の充実	歯科補綴学講座歯科補綴学部門 教授 馬場 一美
薬学研究科	臨床的課題を目指した医療ビッグデータ解析による薬剤疫学研究	病院薬剤学分野 准教授 百 賢二	薬学部	アドバンスト臨床教育を志向した症例研究実践コースの構築	臨床薬学講座臨床栄養代謝学部門 准教授 唐沢 浩二
保健医療学研究科	Effects of basic movements and gait in the case of homolateral imitative synkinesis. (基本動作と歩行における同側性模倣性連合運動の影響)	リハビリテーション分野 講師 大塚 裕之	保健医療学部	初年次における看護基本技術に関する教育プログラムの構築	看護学科 教授 岡本 明子
			富士吉田教育部	学生の多様化に対応する初年次指導担任制度の構築	教授 山本 雅人

8

AUGUST
2026

目次

2

Special Feature

第16回学祖祭を举行

上條奨学賞、上條最優秀論文賞、上條優秀論文賞
昭和医科大学奨学・研究奨励基金研究者、
昭和医科大学学業成績優秀賞の表彰

6

Press Release

廃棄ワイン残渣から新たな化合物を創出
強力な抗酸化作用による創薬・機能性素材開発へ期待
ヒトiPS細胞から腹膜中皮様細胞への分化誘導に成功
腹膜透析で傷ついた腹膜の治療や研究の発展へ寄与
左脳の脳腫瘍による言語障害表出の謎
脳機能の個人差を神経予備脳の観点から示す
パーキンソン病の尿失禁に薬や手術以外の選択肢を
骨盤底筋訓練等の理学療法の介入により改善の可能性

8

News & Topics

大学職員公認サークル表彰式

歯学部白衣授与式

第62回看護専門学校戴帽式

鷺沼キャンパス上棟式

包括連携協定大学連絡協議会^{ほか}

22

Student Life

クラブ活動成績報告

24

Database

卒業生の進路状況

私立大学等経常費補助金交付状況

大学院入試要項

決算の概要 科学研究費助成事業交付内定

28

Meeting Report (学内会議報告)

30

Information

5月31日、第16回学祖祭を上條記念館で举行し、学祖・上條秀介博士の親族、役員、同窓生、職員および学生など642名が出席した。

同日午前、小口勝司理事長をはじめ、役員と親族は、多磨霊園（東京都府中市）にある学祖・上條秀介博士、上條一也博士の墓前を訪れ、参列者一同で黙祷を捧げ、本学の事業が順調であることを報告した。

午後から上條記念館で行われた式典は昭和医科大学管弦楽団の演奏で開式し、上條由美学長の挨拶に続き、上條奨学賞および上條最優秀論文賞・上條優秀論文賞の授与、昭和医科大学奨学・研究奨励基金研究者の表彰、昭和医科大学学業成績優秀賞の授与が行われた。

昭和医科大学上條最優秀論文賞

最優秀論文賞は、本学研究者が筆頭著者として出版した論文（オンライン出版を含む）のうち、最も優秀な論文を発表した職員を対象として表彰するものである。令和8年度は以下の職員が表彰された。

所属・役職	論文名および掲載誌
富士吉田教育部 教授 宮本 洋一	論文名 ／ Supersulfides contribute to joint homeostasis and bone regeneration 掲載誌 ／ <i>Redox Biol.</i> 2025 Apr8 1: 103545

昭和医科大学上條優秀論文賞

優秀論文賞は、本学研究者が筆頭著者として出版した論文（オンライン出版を含む）のうち、優れた論文を発表した職員を対象として表彰するものである。令和8年度は以下の職員が表彰された。

所属・役職	論文名および掲載誌
医学研究科 腫瘍内科学分野 准教授 石田 博雄	論文名 ／ Post-recurrence survival in patients with stage III gastric cancer who received adjuvant chemotherapy: post-hoc analysis of the JACCRO GC-07 study 掲載誌 ／ <i>Eur J Cancer.</i> 2025 Mar 26; 219: 115322.
医学研究科 消化器内科学分野 講師 小形 典之 講師 前田 康晴 准教授 三澤 将史	論文名 ／ Artificial Intelligence-assisted Video Colonoscopy for Disease Monitoring of Ulcerative Colitis: A Prospective Study 掲載誌 ／ <i>J Crohns Colitis.</i> 2025 Jan 11; 19 (1): jjae080
医学研究科 消化器内科学分野 助教 奥村 大志 横浜市北部病院消化器センター 名誉教授 工藤 進英	論文名 ／ Long-term impact of computer-aided adenoma detection: a prospective observational study 掲載誌 ／ <i>Endoscopy.</i> 2025 Sep 5

そして、小口理事長が学校法人昭和医科大学の運営方針について講演し、今年度から全学部に新たなカリキュラムを導入したことや、学部横断による研究連携を推進するため研究センターを設置すること、令和7年度の決算報告などについて説明を行った。

また、本学の100周年記念事業について、鷺沼キャンパス新設工事の進捗状況や、藤が丘病院の再整備事業などをはじめとする、将来構想の具体的なロードマップが示され、100周年という大きな節目に向けて、全学が一丸となり、新たな時代へ歩みを進める決意のメッセージが発信された。

式典後の懇親会には多くの職員や学生が参加し、メディカルオールスターズ (MAS) による演奏、応援指導部による演舞が披露され、盛会となった。

昭和医科大学奨学・研究奨励基金研究者

昭和医科大学奨学・研究奨励基金研究者は、本学の学術研究の将来を担う活力ある若手研究者を育成するため、優れた学術研究を行った職員および本学大学院生を対象として表彰するものである。令和8年度は以下の方々が表彰された。

学術研究諸活動			
	所属	職名	氏名
医学研究科	リウマチ・膠原病内科学分野	助教	河森 一毅
医学研究科	消化器一般外科学分野	助教	片山 諒
医学研究科	医学教育学分野	講師	イズデブスキ 龍也
医学研究科	整形外科科学分野	助教	土谷 弘樹
医学研究科	顕微解剖学分野	助教	馬場 正樹
医学研究科	消化器一般外科学部門	助教	松根 佑典
医学研究科	小児内科学分野	助教	加藤 憲一
歯学研究科	口腔腫瘍外科学分野	講師	安部 勇蔵
保健医療学研究科	教育学分野	講師	川村 彩珠

海外留学諸活動			
	所属	職名	氏名
医学研究科	脳神経内科学分野	助教	井藤 尚仁
医学研究科	腫瘍内科学分野	助教	平澤 優弥
歯学研究科	歯科矯正学分野	助教	藤田 昭彦

昭和医科大学学業成績優秀賞

学業成績優秀賞は、本学各学部の学生および附属看護専門学校の学生のうち、成績優秀者を表彰するものである。令和8年度は以下の学生が表彰された。

学部	年次	氏名
医学部	2年	富田 紀華
	3年	橘 英希
	4年	増南 太輝
	5年	佐藤 優樹
	6年	和田 恵都
	2年	森嶋 啓花
歯学部	3年	山谷 優奈
	4年	佐々木 柚葉
	5年	末木 佐和子
	6年	仲谷 美咲
薬学部	2年	鮫島 結衣
	3年	船木 咲希
	4年	森田 奈乃葉
	5年	山本 千衣里
	6年	高塩 理名
	2年	窪田 英梨奈
保健医療学部	看護学科	リハビリテーション学科理学療法専攻
	3年	佐藤 牙香
看護専門学校	4年	佐々木 萌実
	2年	樋口 朝子
	3年	道上 凛



医学研究科
消化器内科学分野
准教授 三澤 将史

大腸内視鏡と人工知能の臨床応用

このたびは名誉ある上條奨学賞を賜り、大変光栄に存じます。ご指導いただきました工藤進英名誉教授、ならびに本研究にご協力いただきました多くの先生方に心より御礼申し上げます。

大腸がんは本邦のがん死亡の主要因の一つであり、内視鏡検査における病変の見落としや診断のばらつきが長年の課題でした。私は2013年より内視鏡AIの研究開発に取り組み、2018年には日本初のAI内

視鏡診断支援ソフトウェアの薬機法承認取得、および2024年の保険収載にも開発者の一員として貢献いたしました。現在も多施設臨床試験を通じ、AIの実臨床への定着と適応拡大を進めております。

本受賞を励みに、今後も内視鏡AIの社会実装と次世代医療の発展に貢献できるよう微力ながら尽くしてまいりますので、引き続きご指導何卒よろしくお願い申し上げます。



歯学研究科
歯科薬理学分野
講師 畔津 佑季

骨の修復・再生メカニズムの解明

このたび、研究者として名誉ある上條奨学賞を賜り誠にありがとうございます。私は大学院生の時から10年間、骨や歯などの硬組織の研究に取り組んでまいりました。そして今回、骨折修復や骨再生にカルシニューリンという遺伝子が関与することを明らかにし、論文を上梓することができました。ご協力いただいた歯科薬理学講座の高見教授やスタッフの先生方、大

学院生、学部生など多くの方々に感謝申し上げます。現在、この遺伝子を用いた骨再生医療の実現に向けて臨床の先生方の協力を得ながら進めております。今後も研鑽を積み、昭和医科大学と医療の発展のために尽力してまいりますので、よろしくお願いいたします。



薬学研究科
病院薬剤学分野
准教授 百 賢二

臨床的課題を目指した医療ビッグデータ解析による薬剤疫学研究

このたびは名誉ある上條奨学賞を賜り、大変光栄に存じます。田中克巳教授をはじめ、病院薬剤学講座ならびに共同研究者の先生方に心より御礼申し上げます。薬剤師が日常診療で抱く疑問や患者さんの薬物療法上の課題を出発点に、医療ビッグデータを活用した薬剤疫学研究に取り組んでまいりました。個々の症例から見えてくる課題を、集団レベルで検証し、リス

クや実態を定量化することで、臨床判断や医薬品適正使用に資するエビデンスを創出することを目指しています。本受賞を励みに、今後も臨床現場の課題解決につながる研究を推進し、安全で質の高い薬物療法の実現に貢献してまいります。



保健医療学研究科
リハビリテーション分野
講師 大塚 裕之

基本動作と歩行における同側性模倣性連合運動の影響

このたびは名誉ある上條奨学賞を賜り、大変光栄に存じます。ご指導いただきました先生方、共同研究者の皆様に心より御礼申し上げます。

本研究では、脳卒中後にまれにみられる同側性模倣性連合運動（HIS）に着目しました。これは、片側の手足が意図せず一緒に動いてしまう症候です。急性期脳卒中患者1328例を調査した結果、HISは13

例、0.9%に認められ、軽度の運動麻痺と感覚障害を伴っていました。基本動作では目立たない一方、歩行時には腕が不随意に挙上し、転倒リスクや歩きにくさにつながる可能性が示されました。

今後も脳卒中患者の安全な歩行再建と生活の質の向上に貢献できるよう努めてまいります。引き続きご指導のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

学修と学生生活を一体で支援する包括的支援体制の構築

このたびは、名誉ある上條奨学賞 教育功績部門を賜り、大変光栄に存じます。本取り組みに際しまして、ご指導・ご支援を賜りました先生方ならびに関係職員の皆様に、心より御礼申し上げます。

学生一人ひとりが安心して学び、自らの成長を実感できる環境づくりを目指し、教職員間の連携強化や相談支援体制の整備、情報共有の充実などを進めて

まいりました。本受賞は、日頃より学生支援に携わってくださっている多くの皆様のお力添えの賜物であり、深く感謝申し上げます。

本受賞を励みに、今後もより良い学生支援体制の充実に努めてまいります。本取り組みはまだ道半ばではありますが、引き続き大学の教育の発展と医療人育成に尽力してまいります。

バーチャルペイシエントを用いたシミュレーション教育の充実

このたびは名誉ある上條奨学賞を賜り、大変光栄に存じます。

本教育支援システムは、2010年にUSCと共同開発したもので、学生が仮想空間上の自律型仮想患者を対象に、医療面接、診察、診断、治療方針の決定を段階的に学べるシステムです。その後、バージョンアップを重ねながら、学生が主体的にコミュニケーション能力や臨床推論能力を高めるための学習ツールとして活用してまいりました。また、2012年には、本学が中心となって採択された文部科学省大学間連携共同事業を通じて国内4大学で運用され、歯科臨床教育の質向上に貢献できたことを大変嬉しく思います。今回の受賞を励みに、今後もデジタル技術を活用した教育の発展に尽力してまいります。

今回の受賞を励みに、今後もデジタル技術を活用した教育の発展に尽力してまいります。

アドバンスト臨床教育を志向した症例研究実践コースの構築

このたびは名誉ある上條奨学賞を賜り、大変光栄に存じます。アドバンスト臨床教育の構築に際し、ご指導いただきました中村明弘前薬学部長、原俊太郎薬学部長、杉山恵理花教育委員長、向後麻里臨床実習委員長、田中克巳教授をはじめ、ご尽力くださった諸先生方に心よりお礼申し上げます。2022年度改訂「薬学教育モデル・コアカリキュラム」に対応した新たな臨床教育の実施に向けて、教育方略および評価

方法の構築を行いました。これらの構築にあたっては、大学教員と病院薬剤師の連携を主導し、両者の橋渡し役として円滑かつ実効性の高い教育体制の構築に貢献いたしました。本プログラムは20週間にわたる先進的な臨床教育で、全国の薬学部において本学のみが実施しているコースです。今後も優れた臨床薬剤師の育成に努めてまいります。

初年次における看護基本技術に関する教育プログラムの構築

このたびは、栄えある上條奨学賞を賜り、心より御礼申し上げます。日頃より温かく寄り添い支えてくださった先生方に、深く感謝申し上げます。また、富士吉田教育部の先生方にも、多くのご支援を頂戴いたしました。富士吉田キャンパスで初年次教育に携わるようになった約20年前、新しい実習室の環境に合わせて基礎看護技術の学修内容や方法を見直し、二年度以

降の学びに繋がるよう試行錯誤をしてきました。学生には、科学的根拠を踏まえ、自ら考え、判断し、実践する姿勢を大切にしたいと願いながら指導してきました。大変な場面もありましたが、ユニフォーム姿で真剣に学ぶ学生の姿に、励まされました。これからも、学生とともに悩み、最善の看護技術を思考し、提供できる力を育む教育に尽力していきたいと思ひます。

学生の多様化に対応する初年次指導担任制度の構築

このたびは名誉ある上條奨学賞を賜り、大変光栄に存じます。ご指導、ご協力を賜りました先生方ならびに富士吉田校舎事務課の皆様方に、心より御礼申し上げます。

学生たちが社会に出て医療人として活躍できるよう、本学が初年次教育を全寮制で実施する意義を改めて見つめ直し、その成果がより実効的なものとなるよう

努めてまいりました。富士吉田校舎での取り組みではございますが、学部や部署の垣根を越え、多くの方々に多大なるご尽力をいただいておりますことに、改めて深く感謝申し上げます。

今後とも変わらぬご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



医学部
生理学講座
生体制御学部門
教授 砂川 正隆



歯学部
歯科補綴学講座
歯科補綴学部門
教授 馬場 一美



薬学部
臨床薬学講座
臨床栄養代謝学部門
准教授 唐沢 浩二



保健医療学部
看護学科
教授 岡本 明子



富士吉田教育部
教授 山本 雅人



Press Release

廃棄ワイン残渣から新たな化合物を創出 強力な抗酸化作用による創薬・機能性素材開発へ期待

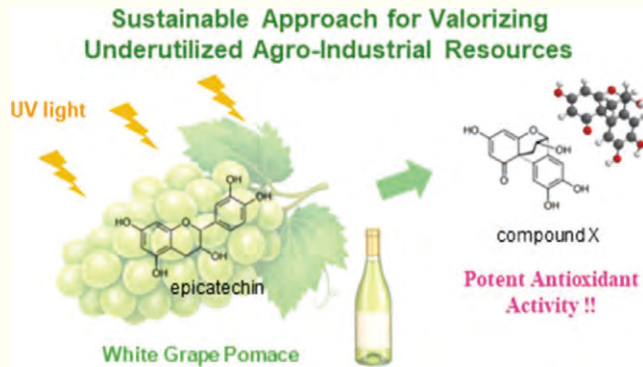


昭和医科大学の研究グループは、白ワイン製造時に生じる未利用資源であるワイン残渣（ポマス）に含まれるポリフェノールに着目し、紫外線照射によって新規構造を有する抗酸化物質の創出に成功した。本研究成果は、資源の高付加価値化と創薬・機能性素材への応用可能性を示すものであり、技術は特許出願済みである。

ポマスはポリフェノールを豊富に含むにもかかわらず、その多くが廃棄されており有効活用が課題とされてきた。特に白ワイン残渣に多く含まれるエピカテキンなどのフラバン-3-オール類は機能性が期待される成分である。本研究では、このエピカテキンに紫外線を照射することで、従来にないbicyclo[2.2.2]octane型骨格を有する新規ポリフェノール（Compound X）を創出した。さらにESR法による評価の結果、当該化合物はビタミンCやビタミンE、EGCgなど既知の抗酸化物質と比較して、低濃度領域において高いヒドロキシラジカル消去活性を示すことが確認された。

本成果は、光エネルギーを用いた構造変換により新たな機能性物質を創出する手法を提示するものであり、従来の抽出中心の天然物研究に新たな可能性を拓くものである。今後は医薬品、機能性食品、化粧品など幅広い分野での応用が期待されるとも

に、未利用資源の有効活用を通じた持続可能社会への貢献も期待される。また大学発ベンチャーによる実用化検討も進められている。



リリース時タイトル／廃棄ワイン残渣から“新規抗酸化物質”を創出 ―紫外線でポリフェノールを変換、創薬・素材開発へ期待―

本件に関する問い合わせ先／統括研究推進センター 講師 塚田 愛 TEL：03-3784-8019 E-mail：m-tsukada@med.showa-u.ac.jp

ヒトiPS細胞から腹膜中皮様細胞への分化誘導に成功 腹膜透析で傷ついた腹膜の治療や研究の発展へ寄与



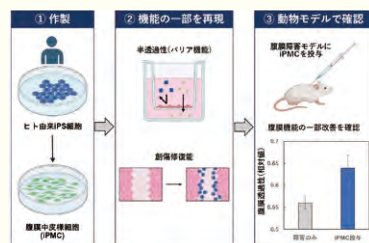
昭和医科大学の加藤憲講師、本田浩一教授らの研究チームは、関西医科大学との共同研究により、ヒトiPS細胞から機能的な腹膜中皮様細胞を作製する新たな分化誘導法を確立した。本技術は、腹膜透析患者に対する再生医療や腹膜障害の病態解明、創薬研究への応用が期待され、関連技術は特許を取得している。本研究成果は国際学術誌『Stem Cell Research & Therapy』に掲載された。

腹膜透析は在宅で継続可能な腎不全治療として広く利用されているが、長期化に伴う腹膜障害によって機能が低下し、治療継続が困難になることが課題となっている。一方、腹膜の修復に重要な役割を担う腹膜中皮細胞を十分に確保することは難しく、再生医療実現の障壁となっていた。

研究チームはヒトiPS細胞から腹膜中皮様細胞を安定的に誘導する技術を開発し、腹膜本来の透過性や選択性などの機能を再現できることを確認した。これにより、ヒト腹膜中皮細胞の安定供給が可能となり、腹膜障害の発症機序の解明や透析液の有効性・安全性評価に活用できる研究モデルの構築が期待される。さらに

将来的には、損傷した腹膜を修復する細胞治療や、腹膜透析の長期継続を支える治療基盤の確立につながる可能性がある。

本成果は、腎臓病患者の生活の質向上や治療選択肢の拡大に貢献する技術として期待される。



リリース時タイトル／【昭和医科大学・関西医科大学】ヒトiPS細胞から傷ついた腹膜を修復する細胞の作製に成功 ―腎臓病患者の腹膜透析を支える再生医療の実現へ前進―

本件に関する問い合わせ先／大学院医学研究科 腎臓内科学分野 講師 加藤憲 TEL：03-3784-8000 E-mail：t-k@med.showa-u.ac.jp

左脳の脳腫瘍による言語障害表出の謎 脳機能の個人差を神経予備脳の観点から示す



昭和医科大学では最新の研究結果等を外部（マスメディア）に発信しています。

ここでは、プレスリリースとして発信した記事を紹介します。

※掲載内容はリリース時の内容となります。なお、2025年12月号から誌面では省略版の掲載に変更しており、全文はQRコードからご案内しているWEBページにてご覧いただけます。

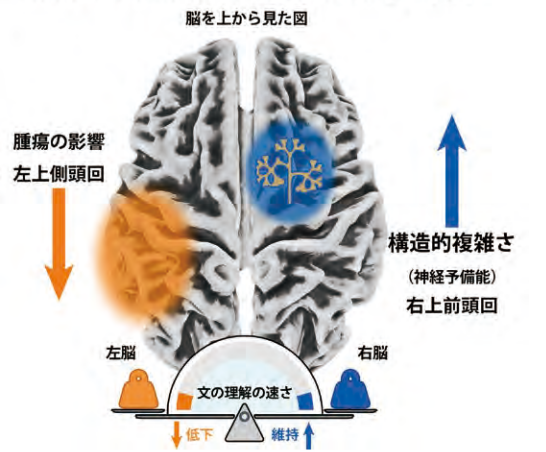
昭和医科大学の金野竜太准教授、東京大学の酒井邦嘉教授、東京女子医科大学の田村学准教授らの研究グループは、脳腫瘍患者における言語処理速度の個人差について、脳構造の観点から検討し、左半球が損傷を受けた場合でも右半球の構造的特徴が機能保持に関与する可能性を明らかにした。本研究は国際誌「Brain and Language」に掲載された。

グリオーマ患者では言語機能低下がみられるが、同程度の病変でも症状の程度には個人差があり、その要因は十分に解明されていなかった。本研究では患者28名と健常者20名を対象に、文理解課題による言語処理速度の測定、MRIによる大脳皮質の構造的複雑さの定量化、病変部位との統合解析を実施した。

その結果、左上側頭回への腫瘍浸潤が処理速度低下と関連する一方、右上前頭回の構造的複雑さが高いほど処理速度が維持される傾向が認められた。さらに両者は独立して言語処理速度に影響を与えることが示され、健常者においても同様の関連が確認された。

本成果は、脳機能の個人差を「神経予備能」の観点から示すものであり、術前の機能予測や個別化リハビリテーション戦略の構築に資する基礎的知見として期待される。

右脳の複雑さが言語障害を軽減するメカニズム



リリース時タイトル／左脳の脳腫瘍による言語障害の個人差を解明 ―右半球の「構造的複雑さ」が言語処理速度を維持する予備能として機能する可能性を示唆―

本件に関する問い合わせ先／藤が丘病院 脳神経内科 准教授 金野竜太 TEL：045-971-1151 E-mail：kinno@med.showa-u.ac.jp

パーキンソン病の尿失禁に薬や手術以外の選択肢を 骨盤底筋訓練等の理学療法介入により改善の可能性



昭和医科大学の大塚裕之講師らの研究グループは、パーキンソン病に伴う排尿の悩みに対する非薬物・非手術療法の効果について、既存研究を統合的に検証した。その結果、骨盤底筋訓練や経皮的脛骨神経電気刺激などの介入により、尿失禁の回数が他の方法と比較して1日あたり約1回少ない傾向が示された。本研究成果は国際学術誌「European Urology Open Science」に掲載された。パーキンソン病では膀胱機能の調整が障害され、頻尿や尿意切迫、尿失禁などの下部尿路症状が約6割にみられるとされ、日常生活や生活の質に大きな影響を及ぼす。一方で、薬物療法の副作用や手術負担を避けたい患者も多く、代替的な治療手段の重要性が高まっている。

本研究では、対象となる16件の研究を基に、排尿日誌や質問票を用いて排尿回数や症状の程度、QOLなどを評価した。その結果、尿失禁については一定の改善傾向が認められた一方、尿意切迫や症状の負担感、QOLに関しては結果が一貫せず、明確な効果は確認されなかった。

これらの結果から、非薬物・非手術療法の特に尿失禁に対して

パーキンソン病の 排尿症状	非薬物・非手術療法 (リハビリテーション)	結果
・ 頻尿 ・ 尿意切迫 ・ 夜間頻尿 ・ 尿もれ	・ 骨盤底筋トレーニング ・ 神経刺激 (足首)	・ 尿もれ ↓ ・ 約1回/日に改善 ・ 効果にはばらつきあり。

有効な補助的選択肢となる可能性が示唆されたが、効果には個人差があり慎重な解釈が必要である。今後は対象や介入方法の標準化を進めるとともに、より質の高い研究による有効性の検証が求められる。

リリース時タイトル／パーキンソン病の排尿の悩みに新たな選択肢 ―薬や手術以外の治療法で尿もれ改善の可能性を示唆―

本件に関する問い合わせ先／保健医療学部リハビリテーション学科 理学療法学専攻 講師 大塚裕之 TEL：045-985-6511 E-mail：ohtsuka@nr.showa-u.ac.jp

2026.4.27

大学職員公認サークル表彰式
本年度は5つの新規サークルが仲間入り

4月27日、令和7年度優秀サークル表彰式および令和8年度新規公認サークル認定通知授与式を上條記念館にて開催し、各サークルの代表者など多くの職員が参加した。

今年は、優秀サークル3サークル・特別賞1サークルが表彰され、小口勝司理事長から表彰状と目録が贈呈された。また、新規公認5サークルに認定通知が授与された。

その後、新規公認サークルの代表者から設立の趣旨や今後の活動に対する意気込みについて発表があった。続いて、令和7年度優秀サークル賞・特別賞に輝いた各サークルの代表者より、昨年度の活動や今後の活動計画について報告があった。

最後に昭和医科大学宣言を参加者全員で唱和し、閉式となった。昭和医科大学職員公認サークルは、種々様々な学内交流を通じて、職員同士が職種を越えて親睦を深めることを目的に、平成23年度に設けられた。

現在は77サークルが認定され、活動している。

サークル名	料理&異文化交流サークル	
所属人数	25名(男9名・女16名)	
活動日	イベントに合わせて随時	
代表者名	工藤 芳子	
問い合わせ先	平泉 由香 kahiraizum@ofc.showa-u.ac.jp	
紹介文	年間を通して本学に研修に訪れる多くの留学生と交流し、世界の料理の作り方やその背景にある食材について学びながら、ご当地料理を体験します。また、相撲や歌舞伎、七福神めぐりなど日本伝統に触れることにより、世界各国の文化の多様性を認識し楽しむことで「LOVE&PEACE」を体感するサークルです。イベントが開催される時期に活動が行われるので、ご興味を持たれた方は、ぜひ、サークルへご登録ください。随時、イベント開催情報をお知らせいたします。また、こんな企画をやってみたい!というアイデアもWELCOMEです。	

サークル名	宇宙サークル	
所属人数	26名(男14名・女12名)	
活動日	宇宙勉強会:金曜日昼休み(変更あり)、 その他随時:宇宙飛行士ミッション 報告会参加、天体観測、 宇宙関連イベント参加	
代表者名	茶谷 昌宏	
問い合わせ先	chatani@dent.showa-u.ac.jp	
紹介文	宇宙を共通のテーマとして学生・大学院生・職員が交流するサークルです。宇宙食の試食会や宇宙に纏わる勉強会、宇宙飛行士講演会への参加などを通じて、宇宙を身近に学ぶ機会を広げています。天体望遠鏡を用いた月・木星・土星の観測に加え、月球儀を活用して月の地形や構造への理解を深めています。また、流星群観測会や宇宙関連書籍を集めた「宇宙ライブラリー」の活用を通じて、実体験と学びを結びつけた活動を展開しています。専門分野や立場を超えた継続的な交流の場づくりを目指しています。	

式典・行事 | サークル



令和7年度 優秀サークル賞	
サークル名	活動内容
料理&異文化交流サークル	各国の料理・文化体験
メンケン	麺料理を通じた交流
宇宙サークル	宇宙に関する活動 (勉強会、天体観測等)

令和7年度 サークル特別賞	
サークル名	受賞した活動
ご当地グッズ開発研究会	富士吉田の素材を活かし、地元企業と連携した草木染作品の作成

令和8年度 新規公認サークル	
サークル名	活動内容
アフター5・爆速リフレッシュHIT	全身運動
メディカルラー研究会	メディカルラー
ASバスケットボール部	バスケットボール
ゆびさきクラブ	手を使った創作活動
Rico Mare	マルチススポーツ

サークル名	メンケン	
所属人数	45名(男25名・女20名)	
活動日	不定期 (各自または少人数で随時活動)	
代表者名	米良 仁志	
問い合わせ先	ストレスマネジメント研究所 小林 如乃 yukinology@med.showa-u.ac.jp	
紹介文	メンケン（麺と健康の研究会）は、蕎麦・ラーメン・うどん・パスタなど、世界中で愛される多様な麺を楽しみながら探求するサークルです。食は心身の健康と深く結びつくという観点から、麺食という日常的な活動に医学的・文化的な意義を見出しています。職種や校舎を超えた45名が在籍し、各自または少人数で麺を楽しみ、体験を仲間と共有するスタイルで活動しています。活動を通じてコミュニケーションが深まったことで、業務での連携円滑化や研究活動の幅の広がりにも繋がっており、今後も皆で充実した活動を続けたいと考えております。	

サークル名	ご当地グッズ開発研究会		
所属人数	30名(男12名・女18名)		
活動日	不定期		
代表者名	金丸 みつ子		
問い合わせ先	mitsuko@med.showa-u.ac.jp		
紹介文	草木染は、小口勝司理事長のご提案で始まり、ご支援で作品になりました。ありがとうございました。地元の前田源商店の生地に、学内の楓・桜枝・花筏・2号館予定地に自生していたクロモジで、染色しました。原料の植物からは想像がつかない色の染物に、感動しました。地元の遠山木工所の額装で、2026年4月から富士吉田校舎1号館1階111号室の壁に展示させていただいております。安全に配慮して、UVカット付きアクリル板の額が、コンクリート壁にしっかり固定されています。富士吉田校舎にお越しの際は是非ご覧ください。		

2026.3.7~3.8

日本臨床腫瘍薬学会学術大会で
最優秀演題賞を受賞

縄田修一准教授(薬学部病院薬剤学講座病院薬剤学部門/横浜市北部病院薬剤部)が、日本臨床腫瘍薬学会学術大会2026(JASPO2026)(3月7日~8日:福岡国際会議場)において、最優秀演題賞(ポスター部門)を受賞した。日本臨床腫瘍薬学会は、がん薬物療法をはじめとするがん医療に関わる薬剤師を中心に6,500名以上が所属する、がん医療に関わる薬剤師の学術団体として国内最大規模の学会である。本大会では約350題のポスター発表が行われ、その中から優れた研究として本演題が最優秀演題賞に選出された。受賞対象となった研究「抗がん薬血管外漏出に対するステロイド局所注射中止後の皮膚障害転帰の検討 ~単施設後ろ向き解析による安全性評価~」では、抗がん薬の血管外漏出時に慣例的に行われてきたステロイド局所注射を中止した場合の安全性について検証した。後ろ向き解析の結果、ステロイド局所注射の有無は皮膚障害の悪化に影響しないことが示され、これまでの慣例的対応を再考する重要な知見として評価された。

【縄田修一准教授のコメント】

この度は、このような栄誉ある賞を賜り大変光栄に存じます。抗がん薬の血管外漏出は本来避けるべき事象ですが、臨床現場では一定の頻度で発生します。これまで慣例的にステロイド局所注射が行われてきましたが、侵襲性が高いにもかかわらず、その有効性については十分なエビデンスがありませんでした。2023年改訂の「がん薬物療法に伴う血管外漏出に関する合同ガイドライン」では、ステロイド局所注射を実施しないことが弱く推奨されており、本研究はその臨床的妥当性を検証したものです。

なお、本研究は薬学部6年生の学生が卒業研究の一環として取り組んだ成果でもあります。研究に尽力してくれた学生をはじめ、ご指導・ご協力いただいた関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

関連リンク/日本臨床腫瘍薬学会 <https://jaspo-oncology.org/> 日本臨床薬学会学術大会2026 <https://www.kwcs.jp/jaspo2026/index.html>



縄田修一准教授

2026.6.13

学生後援会 幹事会・総会を開催
保護者ら500名が参加し、親睦を深める

6月13日、令和8年度昭和医科大学学生後援会幹事会・総会を上條記念館で開催し、医学部・歯学部・薬学部・保健医療学部の学生の保護者など約500名が出席した。

総会は美島健二学生後援会長と名誉会長である上條由美学長の挨拶で始まり、前年度の決算報告や今年度予算案および事業計画案、役員改選についての議案説明があり、全ての審議事項について承認された。

また、100周年記念事業の一環として、鷺沼キャンパスの新設や横浜キャンパスにおける新たな看護専門学校の設定など、将来構想についても説明が行われた。あわせて、これらの事業実現に向け、さらなる支援や協力が呼びかけられた。

総会終了後は、各学部に分かれて部会が開催され、カリキュラムや学生生活など、さまざまな事項について学部長をはじめとする担当教育職員から説明された。

各部会終了後、地下1階富士桜にて懇親会が行われ、美島会長の後任として新たに就任した亀井陽学生後援会長が挨拶し、教育職員も交えて保護者の方同士で親睦を深めていただいた。

懇親会の終了後には、キャンパス構内で育った色とりどりのアジサイを本学公認サークルの「旗の台ガーデニングサークル」が花束にし、希望された方々へお配りした。



新生学生後援会長 亀井陽氏による挨拶

臨床実習に向け白衣授与式を挙行政 歯科医師を目指す自覚と覚悟を白衣に込めて

3月23日、令和8年歯学部白衣授与式を上條記念館で執り行った。

同式は、臨床実習に臨む新5年生を対象に、歯科医師を目指す者としての自覚を促し、心構えを新たにすることを目的に、毎年実施している行事である。

馬場一美歯学部長は告辞で、「本学の附属病院には、先進性と専門性の高い診療を求めて多くの患者さんが来院されます。患者さんのご厚意の上で学ばせていただく立場であることを忘れず、学びを深め、実りのある臨床実習にしてください」と述べ、学生

にエールを送った。

告辞の後、96名一人ひとりに教育職員から白衣が授与された。

真新しい白衣に袖を通した学生たちは、本学附属病院をはじめとする各施設で実習に取り組み、チーム医療の現場において研鑽を重ねていく。



閉式後の様子

富士吉田で新入生クラブ歓迎会 彩り豊かなキャンパスライフへ

4月19日、富士吉田キャンパスにて、新入生クラブ歓迎会を実施した。

本企画は、各クラブの上級生が、新入生が寮生活を送る富士吉田キャンパスで、それぞれのクラブ活動の紹介や宣伝、勧誘を行うイベントである。

当日は天候にも恵まれ、45団体、350名を超える学生が集まり、ピンゴ大会やパフォーマンス、活動内容の体験など、さまざまな企画やイベントが催され、盛況のうちに終了した。

新歓の様子



この日生まれた数々の「出会い」が、一人ひとりのキャンパスライフをより彩り豊かにし、新しい自分を見つけるきっかけとなることを願っている。

看護専門学校第62回戴帽式 137名がナイチンゲールの誓いと共に臨地実習へ

5月8日、第62回戴帽式を昭和医科大学上條記念館で執り行った。

戴帽式とは、臨地実習に臨む2年生を対象に、看護師を目指す者としての自覚と責任を新たにし、その証としてナースキャップを授与する式典であり、毎年実施している。

学生137名一人ひとりに、教育職員からナースキャップの授与を行った後は、在校生代表の松田佑美さんとともにナイチンゲール誓詞が唱和され、学生一同は、これから始まる臨地実習への決意を新たにした。

木内祐二学校長は告辞で「ナイチンゲールが生涯求め続けた望ましい看護とは何かを、常に自らに問い、医療チームとともに学

び、ともに成長してほしいと思います。臨地実習では、看護師に求められるこのような知識、技能、態度を常に感謝の思いを持って学んでください」と述べた。

続いて、上條由美学長、小口勝司理事長、城所扶美子統括看護部長から祝辞があった。

最後に在校生代表の高木惺有さんによる昭和医科大学宣言が行われ、看護専門学校の歌を斉唱して閉式となった。

戴帽後の会場



富士吉田ロータリークラブ清掃活動

5月23日、富士吉田教育部の学生有志56名が富士吉田ロータリークラブとの清掃活動に参加した。

この活動は、毎年5月に富士吉田ロータリークラブ・富士学苑高等学校インターアクト部の皆さんと共同で、道の駅富士吉田や恩賜林庭園周辺の道路や登山道の清掃を行うものである。

当日は、富士北麓地域の涼しさを感じながら、道路脇に落ちていた空き缶やペットボトル、たばこの吸い殻を拾い集めたほか、大きな廃棄物も回収した。

活動終了後は、富士吉田ロータリークラブ・富士学苑高等学校の皆さんとパーベキューを行い、交流を深めた。

富士吉田教育部では、今後も地域貢献活動の一環として、本活動への参加を継続していく予定である。



清掃活動終了後の皆さん

特別奨学生・シンシアー奨学生 63名の採用式を挙行政

5月25日、令和8年度昭和医科大学特別奨学生・シンシアー奨学生採用式を上條記念館で挙行政した。今年度は、特別奨学生として医・歯・薬学部あわせて21名、シンシアー奨学生として医・歯・薬・保健医療学部あわせて42名を採用した。

上條由美学長は挨拶で、「本奨学金制度を活用しながら学び、卒業後も本学で優れた医療人として活躍されとともに、その実績を通じて本学の名を社会に広めていただくことを期待しております」と述べ、奨学生たちにエールを送った。

採用式終了後には、昭和医科大学特別奨学生の会が開催され、特別奨学生を経て本学の教育職員として活躍する先輩たちとの交流が行われた。

■特別奨学金

5年次への進級が確定した医・歯・薬学部の学生を対象に、卒業後直ちに本学大学院へ進学し、修了後も専任教育職員として4年以上勤務すること等を条件に給付するもの。

■シンシアー奨学金

医・歯・薬・保健医療学部の2～4年次の学生を対象に、優れた医療人を目指す資質があり、課外活動等に積極的な学生に給付するもの。

奨学生代表による謝辞



認定看護管理者教育課程 開講式を挙行政 業務効率化や組織改善を担うプロフェッショナルを育成

2026年度認定看護管理者教育課程のファーストレベルおよびセカンドレベルの開講式をオンラインで開催した。

5月15日 ファーストレベル開講式では、城所扶美子統括看護部長が祝辞で「変化する医療現場の中で、看護管理者の役割や重要性を実感されている方も多いと思います。仕事との両立は大変だと思いますが、研修での学びを臨床の現場に持ち帰り、業務効率化や看護ケアの質向上、組織改善に役立っていただければと思います」と述べ、研修生にエールを送った。

6月10日 セカンドレベル開講式では、吉田雅子センター長が「現

在、保健・医療・福祉の世界では、様々な問題が山積しています。今後、新たな仕組みを創造したり、変化に対応したりすることが、看護管理者に求められる使命です。研修を通して、現場での管理に学びを反映し実践をしていくこと、そして組織や地域に貢献していくことを皆さんに期待しています」と述べ、研修生にエールを送った。



セカンド開講式：記念撮影

毎年恒例、横浜自然教育梅園で梅の恵みを楽しむイベント

観梅会・梅まつり 2月27日、昭和医科大学横浜自然教育梅園にて、学内関係者による観梅会を開催した。

同園には約260種類・350本のウメが植えられており、薄桃色や紅色、白色の花が咲き誇る姿に春の訪れを感じた。

続いて、2月28日と3月1日の2日間にわたり「梅まつり」を開催した。

28日には茶道部による野点茶会が行われ、学生がお点前を披露し、お茶と和菓子でもてなした。

1日には、日本梅の会の大坪孝之会長を講師に迎え、ウメの講習会を実施した。参加者は園内を巡りながら、梅の種類や特徴についての解説に熱心に耳を傾けていた。

両日とも天候に恵まれ、学内外から多くの方にご来場いただき盛況のうちに終了した。

梅の収穫祭 5月25日から31日までの1週間、「梅の収穫祭」を開催した。当日は学生や職員などあわせておよそ100名が参加し、木漏れ日に包まれた緑豊かな園内で梅の収穫を楽しんだ。

参加者は、はじめに園のスタッフから収穫方法などについて説



1 観梅会・梅まつり：園内を散歩する方たち 2 梅の収穫祭：収穫の様子

明を受けたあと、ひとつひとつ丁寧に選んだ梅を袋いっぱいに収穫していた。収穫後には、園内で採れた小梅から作られた、淡いピンク色の小梅ジュースが振舞われ、和やかな時間を過ごした。

今後も横浜自然教育梅園が豊かな実りを育み、キャンパスに四季折々の彩りを添えるとともに、多くの学生に親しまれていくことを願っている。

認定看護師教育センター開講式 各分野の高度な専門的看護を担う人材育成を

6月1日、令和8年度昭和医科大学認定看護師教育センター開講式を上條記念館で挙行了。

今年度は、手術看護分野17名、腎不全看護分野22名、認知症看護分野16名、感染管理分野8名、クリティカルケア分野20名の計83名が入学した。

同センターは、専門的な知識・技術とマネジメント能力を兼ね備え、高度な看護実践ができる認定看護師の養成を目的に令和2年度に設置され、本年度で7期生を迎える。

上條由美学長は式辞で「近年の医療環境は急速に変化しており、看護師には専門的な知識や技術を発揮するだけでなく、チーム全体の質の向上に寄与する役割が求められています。

本課程では、各専門分野における高度な知識・技術の習得に加え、チーム医療の中で主体的に役割を果たし、周囲を導く力を養うことが期待されています。新たな視点と深い専門性を身につけ、社会に貢献できる認定看護師として成長されることを心より期待しております」と述べた。



記念撮影

三村洋美認定看護師教育センター長は挨拶で「本センターは、日本の医療を支える高度な専門性を備えた看護師の育成を目的として設置しております。認定看護師としての役割を常に意識しながら、学びの機会を最大限に活かし、専門的知識・技術に加えて、チーム医療の中で役割を果たす力や指導力を養っていただきたいと思います。共に学ぶ仲間と支えあい、指導教員に相談しながら、一步一步着実に歩みを進めてください」と述べた。

閉式後、教員紹介や分野別オリエンテーションを実施した。

包括連携協定大学連絡協議会および連携病院・協定病院連絡協議会

3月27日 学校法人昭和医科大学包括連携協定大学連絡協議会を上條記念館で開催した。

本会の開催は今年で6回目を迎え、協定大学との円滑な活動を図るとともに、新たな連携・協力について協議することを目的としている。

当日は、各協定大学から連携活動の状況について報告があった。

また、本学からは健康管理センターの田中大介所長が「心身の体調不良により修学に支障を来している学生へのアプローチ」と題して、学生の体調不良に対する接し方などについて報告を行った。

4月24日 昭和医科大学連携病院・協定病院連絡協議会を上條記念館で開催した。

本会の開催は今年で10回目を迎え、連携に関する情報交換や



1 田中大介所長による報告 2 事例発表：村上秀友病院長

協力のあり方、人的交流の促進、そのほか連携に関する重要な事項の協議を目的としている。

当日は、連携病院・協定病院による近況報告と、村上秀友病院長（昭和医科大学病院附属東病院）から「昭和医科大学病院の緊急事態における対策と効果」と題して、外来・病棟、手術室、救急外来の運用対策部会の取り組みとその効果について発表が行われた。

今後も更なる連携活動の強化を図っていく。

各学部でオープンキャンパス・入試説明会を開催

4月から5月に各キャンパスでオープンキャンパスを開催し、多くの方々に本学への理解を深めていただいた。

横浜看護専門学校オープンキャンパス（4月25日） 2027年4月に開校予定の横浜看護専門学校において、初めてとなる学校説明会を横浜キャンパスで開催し、18組32名が参加した。

新設される看護専門学校の概要説明や、入学後の学び舎になるキャンパス内の教室や実習室の見学を行ったほか、教員等による個別相談が行われた。

歯学部入試説明会（5月16日） 歯学部入試説明会を上條記念館にて開催し、86組159名が参加した。

全体説明会では、馬場一美歯学部長の挨拶に続き、歯学部の特色や国家試験対策、富士吉田キャンパスでの学生生活、2027年度入学試験等についての説明が行われた。歯科病院見学では、グループに分かれて各診療科や歯科技工室、手術室を見学し、本学の診療体制や最先端の歯科医療について紹介した。

その他、教育職員による個別相談会や在学生とのフリートークが行われ、入試や授業、富士吉田での寮生活といった質問に、在学生らは一つひとつ丁寧に回答していた。



1 横浜看護専門学校オープンキャンパス：学校案内ツアーの様子 2 歯学部入試説明会：挨拶：馬場一美歯学部長 3 富士吉田オープンキャンパス：キャンパスツアー：2号館

富士吉田キャンパスオープンキャンパス（5月30日） 富士吉田キャンパスにてオープンキャンパスを開催した。

当日は包括連携協定校の生徒・保護者64名を含めた255組591名が参加した。

オープンキャンパスでは、1年次の全寮制教育制度や学生生活の紹介、本学の入試制度の説明を行ったほか、各学部の教育職員との個別相談や在学生とのフリートーク、学生座談会などが行われた。

また、「富士吉田での全寮制教育」を体験してもらうため、完成した2号館（実習棟）や学生寮を見学するキャンパスツアーや、馬場や自然教育里山園といった施設を自由に見学できる企画に加え、食堂での昼食体験も併せて実施された。

「暮らしと健康」をテーマに 春期公開講座を開講

春期公開講座が4月から6月にかけて各施設で開講された。各講演終了後には、参加者から多数の質問が寄せられ、講師は一つひとつ丁寧に答えていた。次回の昭和医科大学公開講座は秋期の開催を予定している。

横浜キャンパス

開催日程	4月25日	参加者数	37名
テーマ	頭でわかる、身体でできる ―上達を導く脳科学とスポーツ実践―		
講演内容	「上達を導く脳科学とスポーツ実践」 大塚 裕之（保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 講師） 「勝つための準備」 三宅 英司（保健医療学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻 准教授）		

旗の台キャンパス

開催日程	5月9日	参加者数	160名
テーマ	フレイルに立ち向かう		
講演内容	「整形外科の観点からフレイルについて～フレイルと転倒予防～」 永井 隆士（医学部 リハビリテーション医学講座 准教授） 「歯科の観点から考えるフレイル予防～よく食べて、よく生きる。お口の健康からはじめよう～」 大澤 淡紅子（歯学部 口腔健康管理学講座 口腔機能管理学部門 講師） 「目の衰えから考えるフレイル対策～アイフレイルを知っていますか？」 齋藤 雄太（医学部 眼科学講座 准教授）		

烏山病院

開催日程	5月21日	参加者数	367名（対面92名、オンライン275名）
テーマ	暮らしと健康		
講演内容	「アディクションの対義語はコネクション」 常岡 俊昭（烏山病院 精神神経科 准教授） 「あなたが行きたくなる居場所コンテスト」 依存症の方を支援する関係者など14名		



1 横浜キャンパス公開講座 2 旗の台キャンパス公開講座 3 烏山病院公開講座 4 富士吉田キャンパス公開講座 5 江東豊洲病院公開講座 6 横浜市北部病院公開講座

富士吉田キャンパス

開催日程	5月23日	参加者数	120名
テーマ	得する筋トレ		
講演内容	『人生100年時代を楽しく生きる「賢い生活術」』 山岸 昌一（医学部 内科学講座 糖尿病・代謝・内分泌内科学部門 教授） 『筋肉は裏切らない！10歳若返るための「得する筋トレ」』 林 友則（富士吉田教育部 講師）		

江東豊洲病院

開催日程	6月7日	参加者数	98名
テーマ	見逃さない！痛みから見る体の不調		
講演内容	「頭痛について―その痛み、放っておいても大丈夫？―」 杉山 達也（江東豊洲病院 脳神経外科 教授） 「肩が痛い・動きが悪い―頻度の高い疾患について―」 磯崎 雄一（江東豊洲病院 整形外科 講師）		

横浜市北部病院

開催日程	6月13日	参加者数	78名
テーマ	暮らしと健康		
講演内容	「肝臓がんからあなたを守る―早期発見、最新医療、そして予防の処方箋―」 馬場 俊之（横浜市北部病院 消化器センター 教授） 「その骨折、“年齢のせい”で片づけていませんか？―骨粗鬆症は静かに進みます―」 大下 優介（横浜市北部病院 整形外科 准教授） 「患者サロン『みんなで運動をしよう』」 安藤 貴紀（リハビリテーション技術部 技師）		

東京消防庁より感謝状 救急搬送環境改善活動への尽力を称え

3月7日、東京消防庁より、関沢明彦教授（医学部産婦人科学講座）に対し、消防行政協力章感謝状が贈呈された。関沢教授は、2017年から現在まで継続して東京都メディカルコントロール協議会の委員を務めるとともに、同事後検証委員会および指示指導委員会の委員として、救急搬送環境の改善に長年従事してきた。これらの活動を通じて、都民生活の安全確保と東京消防の発展に寄与したことが評価され、このたび感謝状が贈呈された。

【関沢明彦教授のコメント】

東京都メディカルコントロール協議会は救急搬送システムについての課題を検討する会議体で、都内全域で起こる様々な事例への対応などについての議論が行われ、主に、救急医が構成メンバーになっています。そのような中、妊産婦の搬送には特殊性が

あるとのことで、産婦人科医としてただ一人、このMC協議会に参加させていただいており、この度、このような賞をいただきました。これからも、東京都の救急医療体制の向上のために、尽力していきたいと思っています。



左から、永野義武救急部長（東京消防庁）、関沢明彦教授

森村学園高等部で出張授業を実施 様々な交流を通し高大連携強化へ

2月20日、沼澤聡教授（薬学部基礎医療薬学講座毒物学部門）が、本学の特別協定校である森村学園高等部にて、1年生を対象に「わが国における薬物乱用事情 ―市販薬が危ない！―」をテーマとした出張授業を実施した。

一般的な薬物乱用防止教育とは異なり、日本での薬物乱用の状況と若年者による市販薬への依存と乱用のメカニズムについて、実験結果を交えてサイエンスの切り口からの解説が行われた。

授業後の質疑応答では、高校1年生とは思えない鋭い質問も多く寄せられ、理解度の高さに講師も驚くほどだった。

今後も両校は、様々な相互交流を通じて高大連携を強めていく。



授業の様子

鷺沼キャンパス上棟式を挙行 来年1月の竣工式へ向け工事の安全を祈念

4月9日、創立100周年記念事業の一環として建設工事が進む、鷺沼キャンパス建設工事の現場敷地内において、上棟式を執り行い、大学関係者および工事関係者が参列した。

上棟式は、工事が順調に進んだことに感謝し、完成までの安全を願う節目の行事である。当日は、白幡八幡大神の神職により、厳かに神事が執り行われた。

開式に先立ち、上棟に用いられる鉄骨梁に関係者による寄せ書きが行われ、工事の安全と建物の無事完成への願いが込められた。

神事では、寄せ書きが施された鉄骨梁に金鋸および銀鋸を打ち込む「金鋸打ちの儀」ならびに「銀鋸打ちの儀」が執り行われ、小口勝司理事長と上條由美学長がそれぞれ鋸を打ち込んだ。

その後、鉄骨梁が吊り上げられると、参列者は無事に上棟を迎えられたことに感謝し、改めて今後の工事の安全を祈願した。

鷺沼キャンパスは、2027年1月末の竣工を予定している。



鉄骨梁吊上げの儀

人工関節置換術後合併症の 新規治療戦略が学会で高評価

大池潤助教（藤が丘病院整形外科）が、Orthopaedic Research Society（ORS）2026年次学術集会（3月27日～31日：アメリカ合衆国 ノースカロライナ州シャーロット）において、若手研究者を対象とした表彰プログラムであるNew Investigator Recognition Award（NIRA）のFinalistに選出され、発表を行った。ORSは、基礎研究から臨床応用まで幅広い最新研究が発表される整形外科領域では世界有数の国際学会で、NIRA Finalistには世界各国から選抜された将来性の高い若手研究者が選出されている。大池助教は、人工関節置換術後の重大な合併症の一つで

【大池助教のコメント】

このたび、ORS 2026年次学術集会にてNIRA Finalistに選出いただき、大変光栄に存じます。

ご指導いただいた Rush University Medical Centerの先生方ならびに、日頃よりご支援いただいている昭和医科大学藤が丘病院整形外科の先生方に深く感謝申し上げます。



記念撮影

ある「人工関節周囲感染症」に対する新規治療戦略を報告した。本研究では、国際的にも克服が重要な課題とされている同感染症に対し、細菌バイオフィルムを標的とした抗体治療の有効性を明らかにした。本学の教育職員が国際的に権威ある学会で高い評価を受けたことは大変意義深く、今後のさらなる研究発展が期待される。

今回の経験を糧に、今後も臨床と研究の両面から整形外科医療の発展に貢献できるよう努めてまいります。

関連リンク／Orthopaedic Research Society <https://www.ors.org/2026annualmeeting/>

ORS (米国整形外科基礎学会) にて 若手研究者対象表彰プログラムの 最終候補に2年連続で選出

上條翔太郎准教授(薬学部基礎医療薬学講座生理学部門)が、ORS (Orthopaedic Research Society) 2026 Annual Meeting (3月27日～31日：アメリカ合衆国 ノースカロライナ州シャーロット)において、演題名「滑膜に着目した変形性足関節症の病態と疼痛発生機序の解明」でNew Investigator Recognition Award (NIRA) finalist 35件に選出された。ORSは整形外科・筋骨格系研究分野に特化した主要な学術集会で、2026 Annual Meetingでは基礎研究、トランスレーショナル研究、臨床研究に携わる研究者や臨床医、理学療法士など幅広い分野の参加者が集い、活発に議論が行われた。

【上條翔太郎准教授のコメント】

この度、ORS(Orthopaedic Research Society) 2026 Annual Meetingで2年連続New Investigator Recognition Award (NIRA) finalist 35件に選出していただきました。

足関節は膝関節と比較して軟骨が薄く、水分量が多いなど構造に違いがあります。変形性足関節症特有の病態を解明するために、ラット変形性足関節症モデルを作成しました。変形性足関節症を進行させる滑膜に着目し、変形性足関節症における滑膜の病態進行と疼痛への寄与の一端を解明したことを評価していただきました。本学会発表でいただいたアイデアと現状の結果を融合し、

研究を発展させます。

最後になりますが、研究と留学を支えて下さった昭和医科大学の皆様、関係各位、家族にこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。

関連リンク／New Investigator Recognition Award (NIRA) <https://www.ors.org/2026annualmeeting/> 上條翔太郎講師がORS(米国整形外科基礎学会)でthe 2025 ORS/OREF Travel Grant in Orthopaedic Research Translationを受賞 <https://www.showa-u.ac.jp/news/nid00007330.html>



上條翔太郎 准教授

医学のさらなる発展に向け 国境を越えた交流の深化を

■大学院留学生ウェルカムパーティー

5月26日、上條記念館にて大学院留学生ウェルカムパーティーを開催した。

本学では毎年、大学院留学生を歓迎することを目的に、国際交流センター主催によるウェルカムパーティーを毎年開催している。

今年度は、ルーマニア、モンゴル、ベトナムをはじめとする5か国から、7名の大学院留学生を迎えた。

当日は、大学院留学生の出身国の駐日大使館関係者をお招きし、上條由美学長および各大使館関係者による挨拶の後、宮崎隆国際交流センター長の乾杯を合図に歓談が始まった。

大学院留学生たちは、英語や日本語などを交えて自己紹介や研修・研究への抱負を語り、大使館関係者や本学教育職員、学部留学生等との交流を大いに深めた。

7名の留学生は、引き続き昭和医科大学の各施設で研修・研究に励む。

■タイ・ワライラック大学の学生と教育職員が来訪

4月から5月にかけて、本学の協定校であるタイのワライラック大学から、看護学部・保健医療学部理学療法学科・臨床検査学科の学生と教育職員が来訪した。期間中は、旗の台・横浜・富



1 記念撮影 2 見学の様子

士吉田の各キャンパスに加え、藤が丘病院、藤が丘リハビリテーション病院の2病院で研修を行った。

1. 病院臨床検査科見学と日本医療に関する学習(半日)

対象：保健医療学部臨床検査学科 学生26名と教員11名

2. Global Nursing and Physical Therapy Professional and Cultural Camp (1週間)

対象：看護学部学生6名と教員2名、保健医療学部理学療法学科学生11名と教員3名

3. 藤が丘リハビリテーション病院リハビリテーションセンター見学(1週間)

対象：保健医療学部理学療法学科学生2名と教員2名

この8月には夏休みを利用して、本学保健医療学部学生14名がワライラック大学に赴き、タイの文化に根付いた保健医療と大学生活を体験する研修を行う予定である。

冠動脈機能評価技術「PPG」、商用利用を開始 国内実用化への長年の尽力がついに結実

水上拓也准教授(医学部薬理学講座臨床薬理学部門)が2018年の開発初期から深く関与してきた冠動脈機能評価技術「PPG (Pressure Pullback Gradient)」が、2026年3月21日の第90回日本循環器学会学術総会(JCS 2026)に合わせ、日本国内での商用利用が開始された。PPGは、冠動脈内の圧力を遠位から近位に連続的に引き抜きながら計測(プルバック)し、その勾配を解析することで、病変が「局所性(focal)」か「びまん性(diffuse)」かを0.00から1.00の数値(PPG index)で定量的に評価する手法である。本学は、2019年に国際共同研究「PPG Global」に参画した際、日本国内の医療機関としては初めて本技術を導入した。以来、医学部内科学講座循環器内科部門との緊密な連携のもと、国内におけるPPG研究のフロントランナーとしてその有用性の検証を続けている。従来の検査では困難だった冠動脈病変の病型を客観的に示すことで、ステント治療(PCI)の適切な適応判断や、治療部位の精密な特定を可能にした。本技術の重要性は世界的に認められており、欧州心臓病学会(ESC)が発表した最新の「慢性冠症候群(CCS)管理ガイドライン(2024年版)」においても、

【水上拓也准教授のコメント】

2017年にベルギーでこの技術の構想に携わり、2019年に本学が国内で初めてPPGを導入して以来、新家俊郎教授(医学部内科学講座循環器内科部門)の多大なるご協力とご指導のもと、一貫してこの技術の臨床応用を追求してまいりました。単に虚血の有無を診るだけでなく、血管全体の病態を詳細に把握して最適な治療戦略を立てる『生理学的評価に基づく最適化医療』が、日本でも日常臨床として普及することに大きな喜びを感じています。本学が国内の先駆けとして蓄積してきた世界トップレベルの知見を活かし、個々の患者さんの病態に即した最適な治療をさらに深化させてまいります。今後も、本学から世界へ向けて、次世代の

PPGに関連する論文が多数採用・引用されている。なお、

本技術は、Abbott社より販売される医療機器アプリケーション「CoroFlowカーディオバスキュラー システム」

に搭載され、2026年2月に日本のPMDA承認を取得している。水上准教授は、2017年のベルギー留学中より本プロジェクトに参画してきた。その役割は多岐にわたり、PPG解析アルゴリズムの基礎となる技術開発から、臨床研究のプロトコル立案・実施、データの解析および報告に至るまで、プロジェクトの全工程において主導的な役割を果たしてきた。2019年にはJACC誌にてPPGのコンセプト論文を発表し、その後も長期予後を検証する国際バリデーション研究を牽引するなど、世界的なエビデンス構築を一貫してリードしている。今回の国内商用利用開始は、本学が先駆けて取り組んできた研究成果が、日本の臨床現場全体へ還元される重要な節目となる。

スタンダードとなるエビデンスに基づいた医療革新を力強く発信し続けていく所存です。

関連リンク／コンセプト論文—PPGを用いた冠動脈疾患パターンの定量化 (Collet C, Mizukami T, et al. JACC 2019) DOI/10.1016/j.jacc.2019.07.072 冠動脈疾患パターンがPCI後の狭心症症状に与える影響 (Mizukami T, et al. Circ Cardiovasc Interv. 2026) DOI/10.1161/CIRCINTERVENTIONS.125.015851 冠動脈疾患パターンがPCI後の転帰に与える影響 (Mizukami T, et al. JAHA 2022) DOI/10.1161/JAHA.122.026960 Coroventis CoroFlow製品情報 (Abbott社) <https://www.cardiovascular.abbott/int/en/hcp/products/percutaneous-coronary-intervention/coroventis-coro-flow/about.html>



2025年5月、フランス・パリで開催された欧州心臓血管インターベンション学会(EuroPCR 2025)にて。欧州でのPPG技術の商用利用開始を記念し、発明者や開発チーム、Abbott社関係者と共に。中央の横断幕後方に水上拓也准教授。

国際的学術誌で査読プロセスへの貢献を称え、 優秀副編集長賞を受賞

金野竜太准教授(藤が丘病院脳神経内科)が「Frontiers in Human Neuroscience 2025 Outstanding Associate Editor Award」(2025年Frontiers in Human Neuroscience優秀副編集長賞)を受賞した。本賞は、同誌の編集委員 (Associate Editor) の中から、論文査読プロセスへの多大な貢献と卓越した編集活動を行った研究者に対して授与されるものである。

【金野竜太准教授のコメント】

編集委員を務めることは大変名誉なことです。私は言語の神経ネットワークに焦点を当てる脳神経内科医として、臨床の知見と脳科学をつなぐ質の高い研究をサポートすることに尽力しています。この活動を通じ、専門領域のさらなる発展に貢献していきたい

と考えています。

関連リンク／Frontiers in Human Neuroscience <https://www.frontiersin.org/journals/human-neuroscience>



金野竜太 准教授

Biol Pharm Bull誌にて受賞 学術論文発表数と医療薬学への貢献が評価

百賢二准教授（薬学部病院薬剂学講座臨床研究部門）が、日本薬学会が発行する国際学術誌「Biological and Pharmaceutical Bulletin」（IF: 1.7）において、「Most Published Author Award 2021-2025」を受賞した。日本薬学会は1880年に創立された会員数1万5千人以上を擁する日本を代表する薬学系学術団体であり、本賞は、2021年から2025年の期間に、同誌へ最も多くの学術論文を発表した研究者に贈られるものである。今回の受賞は、百准教授が同誌に継続的に研究成果を発表し、薬学研究および医療薬学の発展に貢献してきたことが評価された。

【百賢二准教授のコメント】

この度は、このような賞を賜り、身に余る光栄に存じます。これまでご指導・ご支援くださいました先生方、ならびに日々ともに臨床と研究に取り組んでくださっている統括薬剤部の皆さまに、心より御礼申し上げます。

2021年から2025年の間に掲載された論文のうち、2報は同誌のFeatured Articleにも選定され、掲載された論文は、病院薬剂学講座に所属するスタッフ6名の学位取得にもつながりました。

これらの研究はいずれも、臨床現場において薬剤師が患者さん一人ひとりの個別性を踏まえ、より適切な薬物治療を提案・実



百賢二 准教授

践していくために必要なエビデンスの創出を目指したものです。日々の臨床で得られる気づきを客観的に検証し、学術的成果として発信してきたことが、今回の受賞につながったものと考えております。

今後も、患者さんに寄り添う良き臨床家の育成と、エビデンスに基づく医療の実践に貢献できるよう、教育・研究の両面から一層精進してまいります。

関連リンク／日本薬学会 <https://www.pharm.or.jp/>

日本薬学会 学生優秀発表賞を受賞

※学年は受賞時のもの

日本薬学会第146年会（3月26日～3月29日：関西大学 千里山キャンパス）において、本学の学生が2025年度日本薬学会学術学生優秀発表賞を受賞した。受賞者と演題名については以下の通り。

演題名・受賞名目	受賞者
「関節リウマチ合併妊娠が誘導する次世代の行動および神経発達への影響」	医学部5年 阿部 頌平さん
「尿中cell-free DNAによるリキッドバイオプシー」	薬学研究科1年 福島 諒さん
「ヒト血管内皮細胞の炎症応答における好中球細胞外トラップとLDLの影響」	薬学研究科3年 岩倉 春姫さん
「メタンフェタミンのトキシコキネティクス解析－投与量と動態プロファイルの比較－」	薬学研究科3年 石田 美智さん
「ローヤルゼリーのマウス抑うつ様行動に対する有効性の検証」	薬学研究科3年 竹中 桃子さん



1 阿部頌平さん 2 左から、福島諒さん、加藤大教授 3 左から、板部洋之名誉教授、岩倉春姫さん、小濱孝士准教授、宮崎拓郎教授 4 左から石田美智さん、光本明日香准教授 5 左から、山崎太義講師、肥田典子教授、竹中桃子さん、上條翔太郎准教授、滝伊織講師

関連リンク／日本薬学会第146年会 <https://pub.conf.it.atlas.jp/ja/event/pharm146>

近年増加している重症型薬疹の 世界初となる英文診断基準が国際誌に掲載

渡辺秀晃教授（医学部皮膚科学講座／横浜市北部病院皮膚科）らの研究グループ（厚生労働科学研究費補助金・難治性疾患政策研究事業「重症多形滲出性紅斑に関する調査研究」）は、重篤な薬剤アレルギーである「スティーヴンス・ジョンソン症候群／中毒性表皮壊死症」について、世界初となる英文での診断基準を「Journal of Dermatology」で発表した。本論文は「PubMed」などの文献データベースからも閲覧可能となっている。抗菌薬や解熱鎮痛薬などの内服後に生じる「スティーヴンス・ジョンソン症候群（SJS）／中毒性表皮壊死症（TEN）」は、高い致死率や眼の後遺症リス

【渡辺秀晃教授のコメント】

我々が日常的に内服している抗菌薬、解熱鎮痛剤、抗けいれん薬、時に市販の医薬品などの内服後に、高熱、眼の充血、口唇のただれ、皮膚の広い範囲が赤くなる・水疱を生じる「スティーヴンス・ジョンソン症候群／中毒性表皮壊死症」という重症型の薬疹があります。医薬品のほかマイコプラズマ感染症などの感染症罹患後に生じることもあります。

スティーヴンス・ジョンソン症候群と中毒性表皮壊死症は一連の疾患と考えられています。これまで様々な研究により、この疾患の「定義付け」はされてきましたが、英文での診断基準はありませんでした。中毒性表皮壊死症では死亡率が30%と高く、救命された場合でも視力低下や失明などを含む後遺症を残すことがあり、診

クを伴う重篤な副作用である。しかし、これまで世界的に確立された英文の診断基準が存在しなかったため、今回、同研究グループが世界に向けて初めて発信した。昨今、新たな抗がん剤や抗体製剤の普及に伴い、皮膚障害の症例が増加している。本診断基準はそれらの対策としても極めて有用であり、今後、世界の臨床現場で広く活用されることが期待される。



渡辺秀晃 教授

断基準の策定が必要とされていました。

本ガイドライン・診断基準は、厚生労働科学研究費補助金（難治性疾患政策研究事業）「重症多形滲出性紅斑に関する調査研究班（班長：新潟大学 阿部理一郎教授）」において策定されたものであり、私が筆頭著者として発表いたしました。

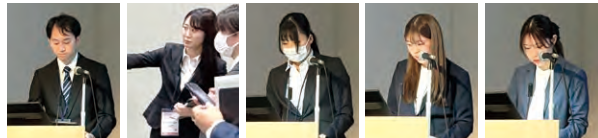
ガイドライン・診断基準が日本だけでなく、世界中の医療関係者に使われることで、社会貢献に繋がることを願っています。今後も様々な角度から薬のアレルギーの検討を深め、特に遺伝的背景を解析することによる発症の予防、治療法の開発に力を入れてまいります。

日本臨床腫瘍学会学術集会で 薬学部生が英語で研究成果発表

青木 俊樹: (MO25-4) Association of ABCB1 variants with peripheral neuropathy induced by nab-paclitaxel in patients with pancreatic cancer
清水 美帆: (P104-1) Effects of ABCA1 or ABCA7 variants on nab-paclitaxel-induced peripheral neuropathy in patients with pancreatic cancer
菅沼 初葉: (MO25-3) Comprehensive exploring of ABC transporter variants associated with systemic exposure to capecitabine and metabolites
武部 麻依: (MO25-2) Effect of ABCA6 variants on systemic exposure to plasma unbound lenvatinib in patients with hepatocellular carcinoma
中山 藍: (MO25-6) Association between aldo-keto reductase 1C3 polymorphisms and systemic exposure to unbound Lenvatinib

発表者 青木俊樹さん、清水美帆さん、菅沼初葉さん、武部麻依さん、中山藍さん（薬学部6年（当時））

日程： 2026年3月26日～28日：パシフィコ横浜
場所



青木俊樹さん 清水美帆さん 菅沼初葉さん 武部麻依さん 中山藍さん

日本腹部救急医学会 臨床研究助成に採択

研究課題 「蛍光パターン二値化と循環・代謝指標による腸管切除要否スコアの開発」

採択者 松根佑典助教（医学部外科学講座消化器一般外科学部門）

日程： 2026年3月12日～13日：パシフィコ横浜
場所



左から田代良彦講師、松根佑典助教、青木武士教授

歯科口腔科学領域の最も優れた業績を称える IADR Distinguished Scientist Awardを受賞

馬場一美教授(歯学部歯科補綴学講座)が、第104回国際歯科研究学会(IADR)学術大会(3月25日～28日:米国カリフォルニア州 サンディエゴ)において、「IADR Distinguished Scientist Award」を受賞した。国際歯科研究学会は、世界最大規模の国際的・学際的歯学系学会で、本賞は、基礎から臨床までの17の研究分野において、分野の発展に貢献する卓越した研究業績を挙げた会員1名に同学会が授与する権威ある賞の一つである。馬場教授は、本学における長年の研究の蓄積と、歯科研究水準の高さが国際的に高く評価された結果、「Research in Prosthodontics and Implants (補綴学およびインプラント学)」の分野で受賞者に選出された。



米国サンディエゴにて開催されたIADR学術大会で行われた表彰式の様子

【馬場一美教授のコメント】

このたび、歴史と伝統あるIADR Distinguished Scientist Awardを賜り、誠に光栄に存じます。

本受賞は、当講座がこれまで取り組んでまいりました「IPS細胞を用いた睡眠時ブラキシズムの疾患モデル構築と治療法開発」「補綴歯科治療におけるデジタル・ワークフローの確立」「包括的な患者立脚型アウトカム評価に基づく臨床判断支援システムの構築」、さらに「バイオマテリアルに関する先端的基礎研究とその社会実装」といった一連の研究の積み重ねが、国際的に評価されたものと受け止めております。

これらの成果は、当講座の教員および大学院生による日々の研鑽の賜物であり、本学の充実した研究環境と、統括研究推進センター(SURAC)をはじめとする学内の諸部局による継続的なご支援に支えられてきたものです。また、国内外の多くの共同研究者の皆様から賜りましたご指導とご協力に、心より御礼申し上げます。

[関連リンク](https://www.iadr.org/)／International Association for Dental, Oral, and Craniofacial Research (IADR) <https://www.iadr.org/>

AIによる内視鏡診断支援システムの開発で 文部科学大臣表彰科学技術賞を受賞

工藤進英名誉教授、三澤将史准教授(横浜市北部病院消化器センター)が、「人工知能を用いた内視鏡診断支援システムの開発」の業績により、令和8年度文部科学大臣表彰科学技術賞(開発部門)を受賞した。なお本賞は、名古屋大学大学院 情報学研究科の森健策教授との共同受賞となる。文部科学大臣表彰科学技術賞は、科学技術の発展に顕著な貢献をした研究者・技術者に対し文部科学大臣から授与される、我が国で最も権威ある科学技術分野の表彰のひとつだ。大腸がんは国内で年間約15万人が罹患し、約5万人が死亡する主要な悪性腫瘍だが、治療適応を判断する実臨床での正診率は84～88%にとどまっていた。本開発では、超拡大内視鏡画像を機械学習によりリアルタイムで自動分類するアルゴリズムを構築し、内視鏡診断支援システム「EndoBRAIN」を実用化し

た。その結果、腫瘍性ポリープの正診率98%を達成し、専門医の診断精度(93.3%)を上回る客観的かつ再現性の高い病変鑑別を実現した。本成果は日本初のAI医療機器として医機法クラスⅢ承認を取得し、国内外への展開が進められている。不要な病理診断の削減による医療費削減効果が期待されるほか、シリーズ製品の一部は保険点数に収載されており、大腸がん診療の質の向上と医療経済の効率化に貢献している。



1 工藤進英名誉教授 2 三澤将史准教授

【三澤将史准教授のコメント】

この度は大変栄誉ある賞を賜り、大変光栄に存じます。受賞の対象となったのは、診療支援を行う内視鏡AIの開発であります。今後もより質の高い医療を提供することを目指し、画期的なAI医療機器の開発を進めていくよう努力してまいります。ご指導賜りました、工藤進英名誉教授、名古屋大学の森健策教授に御礼申し上げますとともに、海外在住のため受賞がかなわなかった共同研

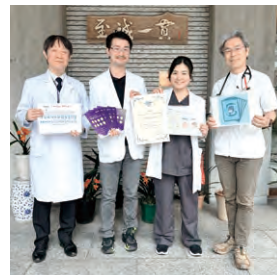
究者のオスロ大学 森悠一教授(昭和医科大学 兼任講師)にも厚く御礼申し上げます。

[関連リンク](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_01620.html)／令和8年度科学技術分野の文部科学大臣表彰受賞者の決定等について(文部科学省サイト) https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/mext_01620.html

UCDAアワード 奨励賞

受賞された取り組み

医学部小児科学講座 小児内科学部門：
「食物アレルギーワークショップ／アレルギーカードゲーム」
医学部内科学講座 呼吸器アレルギー内科学部門：
「食物アレルギー患者用 海外旅行パンフレット」



左から田中明彦教授、能條真助教、関沙和助教、今井孝成教授

日本内科学会総会で 学生が講演

演題名

源河史歩さん：「EGFR変異陽性肺腺癌に対するカルボプラチン・ペメトレキセド・アミバンタマブ療法中に重症低Na血症を呈した一例」
佐藤瑠香さん：「消化管間質腫瘍(GIST)肝転移切除後の再発に対するスニチニブ継続中に遅発性胆汁瘻を発症した一例」

発表者 源河史歩さん、佐藤瑠香さん(医学部5年)

日程： 2026年4月11日：東京国際フォーラム
場所



左から鶴井敏光助教、源河史歩さん、佐藤瑠香さん、小森秀一助教、堀池篤教授

日本口腔科学会 学会賞若手優秀ポスター賞

演題名 「歯肉細胞由来細胞外小胞の抗炎症効果と活性分子の探索」

受賞者 高田亜理菜さん(歯学研究科顎顔面口腔外科学分野3年)

日程： 2026年4月16日～18日：朱鷺メッセ 新潟コンベンションセンター
場所



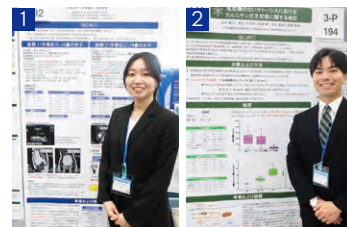
左から高田亜理菜さん、大場誠悟教授

日本小児科学会学術集会で 学生がポスター発表

演題名 椎葉未怜さん：「卵巣の嚢胞性病変を認めた思春期女子の2例」
大口裕人さん：「低血糖を伴わないケトosisにおけるカルニチン欠乏状態に関する検討」

受賞者 椎葉未怜さん、大口裕人さん(医学部6年)

日程： 2026年4月17日～19日：山口県下関市
場所



1 椎葉未怜さん 2 大口裕人さん

— 生協は学園生活のパートナーです —



昭和医科大学生生活協同組合

旗の台：3788-2322(内線)8268 アミ：3785-9729(内線)8369
吉田：0555-23-8505 洗足：3787-4432 横浜：045-985-9624



全国に広がる、日本調剤のネットワーク。

日本調剤株式会社(本社：東京都港区芝)は、
全国 47 都道府県で 760 以上の調剤薬局を展開している企業です。



学生生活

バドミントン部

「個人、団体ともに戦績を残すことができ、大変嬉しく思います。ご指導、サポートしていただいた先生方、先輩や同期、後輩への感謝を忘れず、今後も良い成績を残せるように練習を重ねていきたいと思っています」



準硬式野球部

「このたび、創部以来初の東医体優勝を成し遂げることができ、非常に嬉しく思います。今大会では、部員全員が自分の役割を果たし、全員野球で戦うことができました。後輩達がさらに強い昭和を築いてくれることを期待しています」



水泳部

「冬季医療戦は2025年度最後の公式戦ですが、男子が総合優勝、女子が総合準優勝を果たし、チームとして総合準優勝という大変誇らしい結果を収めることができました。部員一人ひとりがこれまでの練習の成果を存分に発揮し、非常に実りある大会となりました」



馬術部

「昨年度惜しくも逃した優勝杯を、同じメンバーで奪還することができ、大変嬉しく思います。ご指導くださいましたコーチや先生方、馬匹をご提供くださいました関係者の皆さま、試合においてサポートしてくれた部員への感謝を忘れず、より一層練習に励みます」



バスケットボール部

「2025年関東歯科学生バスケットボール大会で歯学部バスケットとして初めての優勝を飾ることができました。秋以降優勝を目指して部員一同一生懸命練習してきて、その成果が実を結び、やってきたことが間違っていなかったと喜びと達成感を感じています。このままの勢いで来年こそオールデンタルで優勝できるよう頑張っていきます」



アイスホッケー部

「第7回サマス・有山杯で優勝を果たすことができました！このほか、最優秀選手賞（大会MVP）を始め、さまざまな個人表彰をいただくことができました。2025年度は思い描いた結果を残せず困難と向き合い続けた一年でしたが、医療系大学が集まる大会で優勝という最高の結末を迎えることができました」

白馬診療所

2025年8月7日(木)、部員たちは白馬岳にて悪天候により低体温症に陥った登山者5名に遭遇しました。日頃の訓練で培った知識と技術を活かし、迅速かつ的確な応急処置を施しました。その適切な判断と献身的な救命活動が評価され、この度、長野県大町警察署から感謝状が贈られました

バレーボール部

第68回東日本医科学生総合体育大会

男子部：第4位（全医体出場権獲得）

ベストセンター賞：康野 瑛嗣（医学部4年）

第57回全日本歯科学生総合体育大会

男子部：準優勝

ベストセッター賞：片岡 隆斗（歯学部4年）

令和7年度春季関東医歯薬大学バレーボール大会

男子部：1部優勝

2025年度秋季関東医科リーグ

男子部：優勝

医学部準硬式野球部

第68回東日本医科学生総合体育大会

総合成績：優勝（全医体出場権獲得）

最優秀投手：近藤 光太（医学部5年）

ベストナイン三塁手部門：青木 優汰（医学部6年）

剣道部

第66回春季関東医歯薬獣医科大学剣道大会

新人団体戦：優勝

第66回秋季関東医歯薬獣医科大学剣道大会

男子団体戦優勝：藤田 鉄平（医学部6年）、大高 良太（医学部5年）、原田 和佳（薬学部4年）、五藤 智（医学部1年）、坪田 素弥（医学部1年）、盧 真朝（医学部1年）、福永 淳一（歯学部1年）

第29回秋季関東医科系大学女子剣道大会

女子団体戦優勝：鈴木 麗（看護学科3年）、谷垣 陽香（医学部2年）、與座 麗奈（薬学部2年）、沼尾 優璃（歯学部1年）、山田 萌衣（薬学部1年）

ハンドボール部

令和7年度関東医歯薬獣医科大学ハンドボール秋季大会

男子部：優勝

男子MVP：坪田 大輝（医学部4年）

男子得点王：山口 拓巳（医学部5年）

女子得点王：相澤 穂佳（薬学部3年）

バドミントン部
医学部・歯学部・薬学部・保険医療学部
関東歯科学生バドミントンリーグ春季大会

女子団体戦：優勝

女子ダブルス優勝：五十嵐 舞（歯学部4年）、大野 華穂（歯学部4年）

男子ダブルス準優勝：池上和輝（歯学部6年）、吉野 達郎（歯学部4年）

第57回全日本歯科学生総合体育大会

女子団体戦：優勝

女子シングルス準優勝：大野 華穂（歯学部4年）

女子ダブルス優勝：五十嵐 舞（歯学部4年）、大野 華穂（歯学部4年）

第4回全日本医学部総合バドミントン選手権大会

男子ダブルス3部第3位：天木 智陽（医学部3年）、小宅 悠之（医学部3年）

混合ダブルス第2位：小宅 悠之（医学部3年）、鈴木 清風（医学部3年）

令和7年度関東コメディカルリーグ

女子団体戦：準優勝

八校新人戦

男子シングルス1部優勝：笠間 蒼馬（リハビリテーション学科理学療法専攻3年）

男子シングルス2部優勝：小宅 悠之（医学部3年）

女子シングルス1部優勝：山田 和未（看護専門学校2年）

歯学部弓道部

第57回全日本歯科学生総合体育大会

個人戦第10位（290名中）：栗田 康平（歯学部4年）

馬術部

第60回全日本医歯薬学生馬術馬術選手権

団体優勝：昭和医科大学

優秀選手賞：北山 天啓（歯学部4年）、堀 響希（歯学部4年）

第37回全日本歯科学生馬術体育大会

優勝：昭和医科大学

第32回全日本医歯薬学生障碍飛越選手権

個人優勝：岩崎 賢志朗（歯学部4年）

個人準優勝：寺内 涼（薬学部5年）

第57回全日本医歯薬学生馬術新人戦

団体優勝：昭和医科大学

個人優勝：佐藤 和音（薬学部2年）

ラグビー部

第73回 関東医歯薬大学ラグビーリーグ

総合成績：2部リーグ優勝（1部リーグ昇格）

陸上競技部

第57回全日本歯科学生総合体育大会

男子100m第1位、男子200m第2位：宮定 太一（歯学部5年）

女子800m、女子1500m第1位：比嘉 紗良（歯学部1年）

第68回東日本医科学生総合体育大会

女子100m第3位：清水 優希（医学部4年）

水泳部

第57回全日本歯科学生総合体育大会

女子総合：第3位

女子400mフリーリレー：第1位

女子200mフリーリレー：第2位

女子100m自由形第1位、女子50m自由形第2位：石田 優（歯学部1年）

女子50m平泳ぎ、女子100m平泳ぎ第1位：廣島 あつこ（歯学部1年）

女子50m平泳ぎ、女子100m平泳ぎ第2位：鯨根 千乃（歯学部3年）

令和7年度冬季医療戦

男子総合：優勝

女子総合：準優勝

男女総合：準優勝

団体戦：男子200mメドレーリレー第1位、男子200mフリーリレー第2位、男子400mフリーリレー第1位、女子400mフリーリレー第2位 他

2025年度新人戦

男子総合：準優勝

女子総合：第3位

サッカー部

2025年度関東医歯薬獣大学サッカー春季リーグ

総合成績：2部リーグ優勝（1部リーグ昇格）

2部リーグ得点王：小倉 拓海（医学部3年）

第57回全日本歯科学生総合体育大会

総合成績：優勝

空手道部

令和7年度東日本薬学系大学空手道選手権大会

男子個人形 第3位：久保田 蓮（薬学部3年）

男子個人組手（有段の部）第3位：久保田 蓮（薬学部3年）

医学部軟式庭球部

神奈川県医師ソフトテニス大会

女子団体戦：準優勝

女子個人戦優勝：中澤 千優（医学部2年）、松崎 栄弥（医学部2年）

男子個人戦準優勝：大口 裕人（医学部5年）、鈴木 輝保（医学部4年）

バスケットボール部

令和7年度関東医歯薬バスケットボール春大会

総合成績：優勝

最優秀選手賞：石井 大介（医学部3年）

優秀選手賞：高橋 陽（医学部3年）

第68回東日本医科学生総合体育大会

総合成績：第3位（全医体出場権獲得）

優秀選手賞：石井 大介（医学部3年）

2025年関東歯科学生バスケットボール大会

総合成績：優勝

アイスホッケー部

第68回東日本医科学生総合体育大会

総合成績：第3位

ベスト6：松山 貴彦（医学部6年）

第7回サマス・有山杯争奪 全日本医療系大学アイスホッケー選手権大会

総合成績：優勝

最優秀選手賞：松山 貴彦（医学部6年）

新人賞：大城 凜（医学部2年）

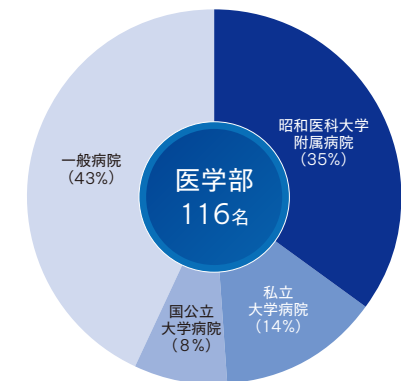
大会ベスト6：峯岸 直哉（医学部6年）、荒井 祐次郎（看護学科4年）、鈴木 颯太（作業療学科4年）



令和7年度

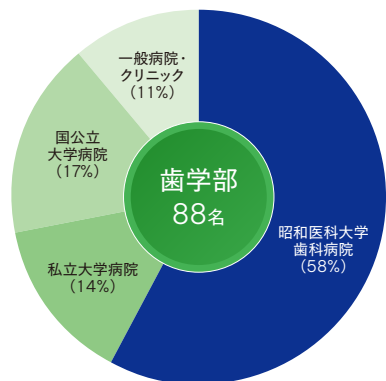
卒業生の進路状況

令和7年度昭和医科大学医・歯・薬・保健医療学部を卒業した学生を対象に実施した進路先調査の結果。例年と同様、国家資格を活かした医療機関への就職の他、教育・研究や後進指導を視野に入れた進路選択が傾向として顕著に見られた。



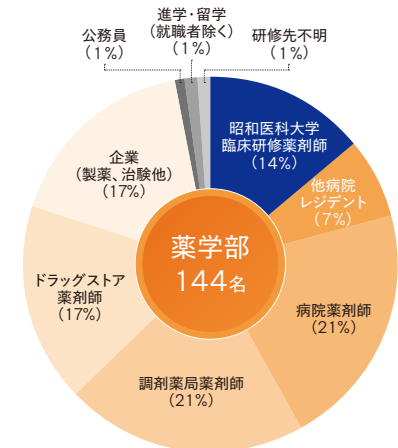
【主な研修先】

昭和医科大学病院、昭和医科大学藤が丘病院、昭和医科大学横浜市北部病院、昭和医科大学江東豊洲病院、信州大学医学部附属病院、東京科学大学病院、自治医科大学附属さいたま医療センター、自治医科大学附属病院、東京慈恵会医科大学附属柏病院、小田原市立病院、亀田総合病院、さいたま市民医療センター、聖隷浜松病院、聖隷三方原病院、長岡中央総合病院、日本赤十字社医療センター 他



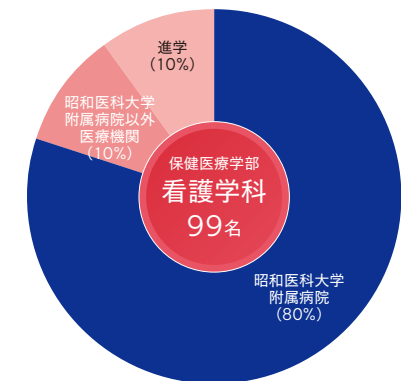
【主な研修先】

昭和医科大学歯科病院、鹿児島大学病院、九州大学病院、京都大学医学部附属病院、九州歯科大学附属病院、筑波大学附属病院、東京科学大学病院、名古屋大学医学部附属病院、新潟大学医学部総合病院、北海道大学病院、愛知学院大学歯学部附属病院、神奈川歯科大学附属横浜クリニック、慶應義塾大学病院、日本歯科大学附属病院、兵庫医科大学病院、医療法人社団歯友会ファミリー歯科、掛川市・袋井市病院企業団立中東遠総合医療センター、ゲートワースワン歯科・矯正歯科、たば歯科医院、地方独立行政法人東京都立病院機構 東京都立荏原病院、独立行政法人地域医療機能推進機構 船橋中央病院、八戸総合歯科・矯正歯科、パシオン歯科医院、ふれあいの丘デンタルクリニック 秋庭矯正歯科、ヤガサキ歯科医院京王稲田堤駅前 他



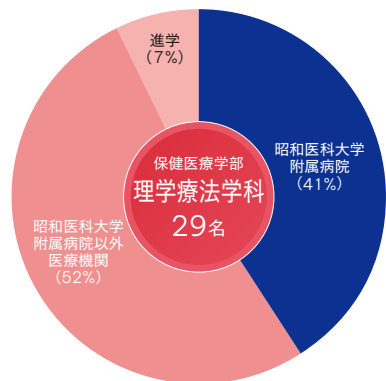
【主な就職先・進路先】

病院薬剤師…昭和医科大学臨床研修薬剤師、NTT東日本関東病院、慶應義塾大学病院、国立がん研究センター東病院、国立生育医療研究センター、国立精神・神経医療研究センター病院、順天堂大学医学部附属順天堂医院、横浜市立大学附属市民総合医療センター、慈恵医科大学病院、イムス三芳総合病院、地域医療機能推進機構、日本赤十字社医療センター、地方独立行政法人東京都立病院機構、独立行政法人国立病院機構 他
ドラッグストア…(株)カワチ薬品、(株)スギ薬局、(株)トモズ 他
企業…エーザイ(株)、小野薬品工業(株)、ノバルティスファーマ(株)、ICONクリニックリサーチ合同会社、IQVIAジャパン、イービーエス(株) 他
公務員…群馬県職員、静岡県職員
進学…昭和医科大学大学院薬学研究所、日本獣医生命科学大学、留学



【主な就職先・進路先】

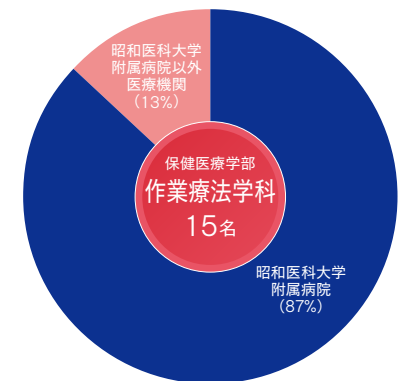
昭和医科大学病院・昭和医科大学病院附属東病院、昭和医科大学藤が丘病院・藤が丘リハビリテーション病院、昭和医科大学横浜市北部病院、昭和医科大学江東豊洲病院、小田原市立病院、神奈川県立循環器呼吸器病センター、北里大学病院、横浜市立市民病院、横浜市立大学附属市民総合医療センター 他
進学…昭和医科大学大学院保健医療学研究所、昭和医科大学助産学専攻科 他



【主な就職先】

昭和医科大学病院、昭和医科大学病院附属東病院、昭和医科大学藤が丘病院、昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院、昭和医科大学横浜市北部病院、昭和医科大学江東豊洲病院、河北医療財団河北総合病院、日本医科大学付属病院、牧田総合病院・牧田リハビリテーション病院 他

進学…昭和医科大学大学院保健医療学研究所



【主な就職先】

昭和医科大学病院、昭和医科大学病院附属東病院、昭和医科大学藤が丘病院、昭和医科大学藤が丘リハビリテーション病院、昭和医科大学横浜市北部病院、昭和医科大学鳥山病院、昭和医科大学江東豊洲病院、上伊那生協病院、タムスさくら病院江戸川 他

令和7年度

私立大学等経常費補助金交付状況

日本私立学校振興・共済事業団は令和8年3月、私立の大学、短期大学、高等専門学校に交付する令和7年度の経常費補助金が、2,978億7,031万7千円になると発表した。私立大学等経常費補助金は、①私立大学等（私立の大学・短期大学・高等専門学校）の教育研究条件の維持向上、②学生の修学上の経済的負担の軽減、③私立大学等の経営の健全性向上に資するため、日本私立学校振興・共済事業団が国から補助金の交付を受け、これを財源として学校法人に対して設置学校の経常的経費について補助するもの。この補助金には、各学校における教職員数や学生数等に所定の単価を乗じて得た基準額を教育研究条件の状況に応じ傾斜配分する「一般補助」と、教育研究に関する特色ある取組に応じ配分する「特別補助」がある。令和7年度は、大学586校、短期大学247校、高等専門学校2校の計835校に交付され、本学は57億9,060万3千円（前年比4,418万7千円増）と、大学では4番目に多い交付額だった。

大学586校（千円）				
順位（前年）	大学名	一般補助	特別補助	補助金合計
1	(1) 早稲田大学	7,957,315	1,042,115	8,999,430
2	(2) 慶應義塾大学	8,301,129	665,642	8,966,771
3	(3) 立命館大学	5,546,550	557,441	6,103,991
4	(4) 昭和医科大学	5,532,880	257,723	5,790,603
5	(5) 順天堂大学	5,240,227	442,583	5,682,810
6	(6) 東海大学	4,844,514	209,462	5,053,976
7	(7) 近畿大学	4,256,044	239,594	4,495,638
8	(8) 北里大学	4,027,419	278,870	4,306,289
9	(10) 東京理科大学	3,551,084	257,910	3,808,994
10	(9) 帝京大学	3,272,001	317,941	3,589,942
11	(17) 明治大学	3,260,446	325,743	3,586,189
12	(12) 藤田医科大学	3,315,002	108,568	3,423,570
13	(11) 福岡大学	3,265,315	133,250	3,398,565
14	(13) 関西大学	2,953,780	408,198	3,361,978
15	(15) 東京慈恵会医科大学	3,026,227	133,800	3,160,027

2026年度秋季・2027年度春季
大学院入学試験要項 決定

2026年度秋季・2027年度春季大学院入学試験要項を公開し、2026年度秋季・2027年度春季Ⅰ期入試の出願がスタートした。

昨年度からの変更点は、保健医療学研究科博士前期課程専門コースで英語の試験時間の変更（1時間から1時間30分へ変更）と面接を実施する点だ。

※入学時期 秋季：2026年10月 春季Ⅰ期・Ⅱ期、春季：2027年4月

- ◆医学研究科（博士課程募集人員：60名）
- ◆歯学研究科（博士課程募集人員：22名）
- ◆薬学研究科（博士課程募集人員：15名）

	秋季・春季Ⅰ期	春季Ⅱ期
出願資格認定受付期間（対象者のみ）	2026年6月1日(月)～6月11日(休)	2026年11月30日(月)～12月10日(休)
出願期間	2026年7月17日(金)～7月31日(金) 13時	2027年1月25日(月)～2月5日(金) 13時
試験日	2026年8月15日(土)	2027年2月20日(土)
合格発表	2026年9月3日(休) 16時	2027年3月4日(休) 16時

- ◆保健医療学研究科（募集人員 博士前期課程：20名、博士後期課程：6名）

	秋季	春季
出願資格認定受付期間（対象者のみ）	2026年6月22日(月)～7月8日(休) 17時	2026年9月28日(月)～10月7日(休) 17時
出願期間	2026年7月21日(火)～8月12日(休) 17時	2026年10月5日(月)～10月28日(休) 17時
試験日	2026年8月22日(土)	2026年11月7日(土)
合格発表	2026年9月3日(休) 15時	2026年11月27日(金) 15時

学校法人昭和医科大学 決算の概要

令和7年度 学校法人昭和医科大学の決算は、令和8年6月9日の理事会で承認され、令和8年6月19日の評議員会にて報告した。令和7年度は、医療収入は前年度を上回る推移を辿っているが、物価高騰の影響により薬品費、医療材料費等の支出が増加傾向にあり、「増収減益」となっている。設備投資としては、教育環境

を整備すべく、鷺沼キャンパス新校舎の建設が進み、富士吉田キャンパス新実習棟（2号館）が竣工した。附属病院の診療環境の整備においては、都内3病院（江東豊洲病院・烏山病院・歯科病院）の電子カルテ更新を行った。外部資金の獲得では、私立大学等経常費補助金の交付額が全国4位となった。

1. 貸借対照表について

令和8年3月31日現在の財産状況を示しています。固定資産（土地・建物・機器備品・特定資産他）と流動資産（現金預金・未収入金他）の資産の部合計は、2,718億3,173万円で、前年度末と比べて97億274万円の増加となりました。主な変動要因として、固定資産の特定資産は、将来構想を実現するための積立金であり、令和7年度予算計上額の繰り入れ及び一部の特定資産を取り崩した結果、27億3,823万円の増加となりました。学内預金制度の資金は、学内預金引当特定資産として支払資金とは区分して保全管理しています。流動資産の現金預金は、48億6,260万円の減少となりました。

一方、固定負債（長期借入金・退職給与引当金他）と流動負債（短期借入金・未払金他）の負債の部合計は、555億9,283万円で、未払金等が増加したことで前年度末と比べて、83億1,632万円の増加となりました。

資産の部合計から負債の部合計を差し引いた純資産は、2,162億3,890万円で、前年度末と比べて、13億8,642万円の増加となりました。

2. 事業活動収支について

事業活動収支は、企業会計の損益計算に近いもので、収支均衡状態を測定し経営状況を明らかにするものです。諸活動の収入を合算した事業活動収入は、1,488億7,151万円となり、予算と比べて、77億1,411万円の増額となりました。収入の部の主要科目については、予算と比べて、学生生徒等納付金は、672万円の増額、手数料は、1,606万円の増額、寄付金は、2億6,357万円の増額、経常費等補助金は、14億728万円の増額、付随事業収入は、1億3,580万円の増額、医療収入は、50億6,135万円の増額、雑収入は、2億8,994万円の増額でした。支出の部の主要科目については、予算と比べて、人件費は、12億3,535万円の増額で

執行率は102.2%、教育研究経費は、68億8,527万円の増額で執行率は109.4%となりました。この教育研究経費の中で大きな比重を占める、薬品費・医療材料費・給食材料費・医療委託費の支出からなる「直接医療経費」は、医療収入比率39.5%となりました。管理経費は、16億6,937万円の減額で執行率は77.4%

でした。また、主要科目の構成割合は、学生生徒等納付金6.9%、経常費等補助金6.3%、医療収入82.3%でした。一方、事業活動支出は、1,474億8,509万円となり、予算と比べて、64億4,515万円の増額となりました。構成割合は、人件費39.6%、教育研究経費54.2%、管理経費3.9%となりました。なお、資金の動きを伴

令和7年度 資金収支計算書

(単位:円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	10,198,555,000	人件費支出	58,463,381,311
手数料収入	427,572,620	教育研究経費支出	72,647,392,213
寄付金収入	1,008,784,643	管理経費支出	4,932,062,534
補助金収入	9,322,800,686	借入金等利息支出	61,199,357
資産売却収入	10,719,209,523	借入金等返済支出	2,359,390,000
付随事業・収益事業収入	2,599,174,704	施設関係支出	16,957,424,038
医療収入	122,516,658,406	設備関係支出	7,255,496,339
受取利息・配当金収入	495,074,903	資産運用支出	32,344,748,025
雑収入	2,034,133,904	その他の支出	16,027,552,083
借入金等収入	6,177,000,000		
前受金収入	1,885,901,040		
その他の収入	48,646,432,709		
資金収入調整勘定	△ 24,599,605,314	資金支出調整勘定	△ 14,754,356,517
前年度繰越支払資金	27,463,396,216	翌年度繰越支払資金	22,600,799,657
収入の部合計	218,895,089,040	支出の部合計	218,895,089,040

令和7年度 事業活動収支計算書

(単位:円)

教育活動収支		特別収支	
事業活動収入の部		事業活動収入の部	
学生生徒等納付金	10,198,555,000	資産売却差額	170,620,503
手数料	427,572,620	その他の特別収入	901,687,654
寄付金	588,642,623	特別収入計	1,072,308,157
経常費等補助金	8,965,108,227	事業活動支出の部	
付随事業収入	2,322,085,218	資産処分差額	137,164,820
医療収入	122,516,658,406	その他の特別支出	3,174,647,955
雑収入	2,008,417,089	特別支出計	3,311,812,775
教育活動収入計	147,027,039,183	特別収支差額	△ 2,239,504,618
事業活動支出の部		基本金組入前当年度収支差額	1,386,419,647
人件費	58,397,640,506	基本金組入額合計	△ 17,214,758,035
教育研究経費	79,916,761,937	当年度収支差額	△ 15,828,338,388
管理経費	5,728,261,315	前年度繰越収支差額	△ 115,933,667,660
徴収不能額等	69,416,192	翌年度繰越収支差額	△ 131,762,006,048
教育活動支出計	144,112,079,950		
教育活動収支差額	2,914,959,233		
教育活動外収支			
事業活動収入の部			
受取利息・配当金	495,074,903		
その他の教育活動外収入	277,089,486		
教育活動外収入計	772,164,389		
事業活動支出の部			
借入金等利息	61,199,357		
その他の教育活動外支出	0		
教育活動外支出計	61,199,357		
教育活動外収支差額	710,965,032		
経常収支差額	3,625,924,265		

わない退職給与引当金繰入額21億173万円、賞与引当金繰入額31億6,425万円は人件費に、減価償却額80億8,418万円は教育研究経費と管理経費に含まれています。教育活動収支と教育活動外収支からなる経常収支差額は、36億2,592万円の収入超過となりました。基本金組入前当年度収支差額は、13億8,642万円の収入超過で黒字となり、事業活動収支差額比率は、0.93%でした。基本金繰入額172億1,476万円を引いた当年度収支差額は、158億2,834万円の支出超過となりました。

3. 資金収支について

資金収支は、法人の諸活動に対応する資金の動きを伴う収入支出の内容を示しています。当年度の資金収入は、1,914億3,169万円（前年度繰越支払資金を除く）、資金支出は、1,962億9,429万円（翌年度繰越支払資金を除く）で、支払資金は、48億6,260万円の減少となりました。科目ごとの金額は、事業活動収支と重複しますので、主要科目を以下に示します。

収入の部の主要科目については、予算と比べて、資産売却収入は、107億1,921万円の増額、その他の収入は、特定資産取崩収入等によ

り、150億5,864万円の増額でした。

支出の部の主要科目については、予算と比べて、土地、建物等の施設関係支出は、52億12万円の減額で執行率は76.5%、教育研究用機器備品、図書などの設備関係支出は、12億4,149万円の減額で執行率は85.4%、資産運用支出は、有価証券購入支出等により、234億5,475万円の増額でした。これら以外の科目では借入金等返済支出、その他の支出等があります。

※本学は財務情報の公開の一端として、当法人の「利害関係者」に財務諸表等の閲覧を供します。また、昭和医科大学ホームページにも財務諸表を公開します。
※当法人の財務諸表は、学校法人会計基準に則って作成しており、補助金交付の表示区分となっております。

(財務担当理事 小風 暁)

貸借対照表

令和8年3月31日現在 (単位:円)

資産の部		負債の部	
固定資産	224,489,447,308	固定負債	30,052,609,647
有形固定資産	168,047,030,114	流動負債	25,540,217,345
特定資産	42,782,534,410	負債の部合計	55,592,826,992
その他の固定資産	13,659,882,784	純資産の部	
流動資産	47,342,279,765	基本金	348,000,906,129
		繰越収支差額	△ 131,762,006,048
		純資産の部合計	216,238,900,081
資産の部合計	271,831,727,073	負債及び純資産の部合計	271,831,727,073

令和8年度

科学研究費助成事業 交付内定

令和8年度の科学研究費助成事業の交付が内定

し、本学は昨年度より3件多い346件が採択され、総計で4億915万円が交付されることとなりました。同事業は、人文学・社会科学から自然科学までのすべての分野にわたり、基礎から応用までのあらゆる「学術研究」（研究者の自由な発想に基づく研究）を格段に発展させることを目的としており、各専門分野の研究者の審査・評価を経て、採択課題が選定されます。交付内定の内訳は表のとおりです。

令和8年度 総計 346件 409,156,168円

交付内定の内訳

令和8年5月現在 (令和8年度転入者含む)

研究科・研究所別内訳	件数	金額(円)	研究種目別内訳	件数	金額(円)
医学研究科	135	158,100,000	学術変革領域研究(A)	2	19,100,000
歯学研究科	105	130,700,000	基盤研究(A)	1	9,800,000
薬学研究科	36	43,256,168	基盤研究(B)	15	57,300,000
保健医療学研究科	32	21,100,000	基盤研究(C)	189	184,600,000
富士吉田教育部	3	6,400,000	挑戦的研究(萌芽)	5	8,400,000
先端がん治療研究所	2	1,400,000	若手研究	117	115,156,168
臨床薬理研究所	6	8,100,000	若手研究(B)	1	(※1) 0
発達障害医療研究所	4	8,300,000	研究活動スタート支援	14	13,400,000
スポーツ運動科学研究所	1	2,900,000	特別研究員奨励費	2	1,400,000
富士山麓自然・生物研究所	4	7,300,000			
ストレスマネジメント研究所	1	700,000			
臨床疫学研究所	3	2,000,000			
細胞外マトリックス研究所	6	8,000,000			
電子顕微鏡室	1	1,100,000			
統括研究推進センター	5	8,300,000			
医学英語教育センター	1	900,000			
認定看護師教育センター	1	600,000			

※1：研究中断に伴う継続課題のため、本年度分の入金無し

総務課
大学広報係

「SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS」2027年2月号(新春号)

表紙写真の募集のお知らせ

新春号の表紙を飾る写真を募集します。
皆さまからのご応募をお待ちしております。

【条件】◇デジタルカメラまたはスマートフォン搭載カメラで撮影されたデジタル画像(カラー・縮小していないもの)
◇ファイル形式：JPGまたはPNG
◇画素数：短辺2,000px以上、長辺3,000px以上のもの
◇風景写真(人物・絵画はNG)
◇自作未発表のもの

【備考】◇掲載時に誌面に合わせて写真をトリミング処理します
◇撮影後の写真について、合成等の過度な加工は選外になる場合がありますのでご注意ください

【応募方法・お問い合わせ】応募写真はメールへのデータ添付、もしくはファイル転送サービスをご利用ください。

◇氏名(ふりがな)、大学との関係(学生・職員・卒業生など)、撮影場所を明記。

※氏名、撮影場所を掲載しますのでご了承ください

◇送付先
学校法人昭和医科大学
総務部 総務課 大学広報係
メール：press@ofc.showa-u.ac.jp





就任のお知らせ（4月14日 理事会承認）

特任教授



中村 明央

理由：横浜市北部病院救急センター（救急診療科）診療のため
任期：令和8年4月1日～令和9年3月31日

保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻 教授



依田 光正

医学部リハビリテーション医学講座 教授（員外）
〔勤務地：横浜市北部病院リハビリテーション科〕
任命日：令和8年4月1日

医学部外科学講座（心臓血管外科部門）担当 教授（員外）
〔勤務地：藤が丘病院循環器センター心臓血管外科〕



長岡 英気

東京科学大学病院 心臓血管外科 准教授
任命日：令和8年4月1日

医学部内科学講座（循環器内科学部門）担当 教授（員外）
〔勤務地：江東豊洲病院循環器センター循環器内科〕

江東豊洲病院循環器センター循環器内科診療科長



若林 公平

医学部内科学講座（循環器内科学部門）担当 准教授
〔勤務地：江東豊洲病院循環器センター循環器内科〕
任命日：令和8年4月1日

横浜市北部病院外科系診療センター麻酔科診療科長
〔勤務地：横浜市北部病院外科系診療センター麻酔科〕



橋本 徳

医学部麻酔学講座担当 准教授
〔勤務地：横浜市北部病院外科系診療センター麻酔科〕
任命日：令和8年4月1日

横浜市北部病院内科系診療センターリハビリテーション科診療科長
〔勤務地：横浜市北部病院内科系診療センターリハビリテーション科〕



永井 隆士

医学部リハビリテーション医学講座担当 准教授
〔勤務地：昭和医科大学病院附属東病院リハビリテーション科〕
任命日：令和8年4月1日

スポーツ運動科学研究所長



加賀谷 善教

保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻 教授
任期：令和8年4月1日～令和11年3月31日
※保健医療学部リハビリテーション学科理学療法学専攻 教授と兼務

就任のお知らせ（5月12日 理事会承認）

昭和医科大学病院長（再任）

相良 博典

現：特任教授
任期：令和8年4月1日～令和11年3月31日

医学部外科学講座（小児心臓血管外科部門）担当 教授
〔勤務地：昭和医科大学病院小児心臓血管外科〕



宮原 義典

医学部外科学講座（小児心臓血管外科部門）担当 教授（員外）
〔勤務地：昭和医科大学病院小児心臓血管外科〕
任命日：令和8年5月12日

医学部小児科学講座（小児循環器内科学部門）担当 教授
〔勤務地：昭和医科大学病院小児循環器内科〕



藤井 隆成

医学部小児科学講座（小児循環器内科学部門）担当 教授（員外）
〔勤務地：昭和医科大学病院小児循環器内科〕
任命日：令和8年5月12日

医学部内科学講座（リウマチ・膠原病内科学部門）担当 教授
〔勤務地：藤が丘病院内科系診療センター内科〕



井上 嘉彦

医学部内科学講座（リウマチ・膠原病内科学部門）担当 教授（員外）
〔勤務地：藤が丘病院内科系診療センター内科〕
任命日：令和8年5月12日

医学部内科学講座（循環器内科学部門）担当 教授（員外）
〔勤務地：藤が丘病院循環器センター循環器内科〕



礪 良崇

医学部内科学講座（循環器内科学部門）担当 准教授
〔勤務地：藤が丘病院循環器センター循環器内科〕
任命日：令和8年5月12日

医学英語教育センター教授（員外）



大野 真機

医学英語教育センター 准教授
任命日：令和8年5月12日

理事会関係

◆昭和医科大学 生成AIガイドライン制定について

【制定趣旨】昭和医科大学が教育・研究・臨床の各分野において、生成AIを活用するにあたり、透明性、公正性、安全性を確保しつつ、適切に利用することを推進するため。

【施行日】令和8年4月1日

◆保健医療学部新学科・新専攻における

文部科学大臣が指定する看護師学校等の指定申請について

【趣旨】令和9年4月開設予定の保健医療学部新学科・新専攻において、診療放射線技師、臨床工学技士、歯科衛生士、言語聴覚士および視能訓練士の国家資格取得に必要な教育課程を設置するため、所要の法令（診療放射線技師法施行令第8条、臨床工学技士学校養成所指定規則第2条、歯科衛生士法施行令第3条、言語聴覚士学校養成所指定規則第2条、視能訓練士法施行令第11条）に基づき、文部科学省へ養成施設としての指定申請を行う必要があるため。

【申請日】令和8年5月29日

【指定開始日】令和9年4月1日

◆保健医療学部リハビリテーション学科における

文部科学大臣が指定する看護師学校等の変更承認申請について

【趣旨】令和9年4月からの鷺沼キャンパス移転および入学定員変更に伴い、理学療法士及び作業療法士法施行令第11条第1項の規定に基づき、文部科学省へ変更承認申請を行うため。

【申請日】令和8年5月29日

【指定開始日】令和9年4月1日

◆保健医療学部看護学科における

文部科学大臣が指定する看護師学校等の変更承認申請について

【趣旨】令和9年4月からの鷺沼キャンパス移転に伴い、保健師助産師看護師法施行令第13条第1項の規定に基づき、文部科学省へ変更承認申請を行うため。

【申請日】令和8年5月29日

【指定開始日】令和9年4月1日

◆助産学専攻科における

文部科学大臣が指定する看護師学校等の変更承認申請について

【趣旨】令和9年4月からの鷺沼キャンパス移転に伴い、保健師助産師看護師法施行令第13条第1項の規定に基づき、文部科学省へ変更承認申請を行うため。

【申請日】令和8年5月29日

【指定開始日】令和9年4月1日

学務関係

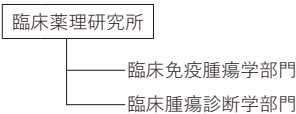
◆臨床薬理研究所部門名称追加および烏山病院組織図変更

【追加部門】昭和医科大学臨床薬理研究所 臨床薬理部門

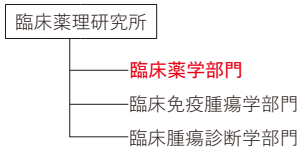
【追加時期】令和8年4月1日

〈昭和医科大学臨床薬研究所組織図〉

【変更前】



【変更後】



◆令和8年度学生数報告（令和8年5月1日現在）

学部・学科		在学生数
医学部	医学科	777名
歯学部	歯学科	604名
薬学部	薬学科	1,221名
保健医療学部	看護学科	414名
	理学療法学科	6名
	作業療法学科	—
	リハビリテーション学科（理学療法学専攻）	159名
	リハビリテーション学科（作業療法学専攻）	62名
合計		3,243名

大学院		在学生数
医学研究科		300名
歯学研究科		116名
薬学研究科		101名
保健医療学研究科（博士前期課程）		48名
保健医療学研究科（博士後期課程）		17名
合計		582名

専攻科		在学生数
助産学専攻科		14名

専門学校		在学生数
昭和医科大学附属看護専門学校		458名

総合計：4,297名

i Information

詳細・更新情報は各部署へお問い合わせください。

上條記念ミュージアム

【校名変更記念】企画展 「旧昭和医科大学の頃」好評により期間延長！

大学の校名変更を記念して、第7回企画展「旧昭和医科大学の頃～戦後の制度改革を乗り越えた大学の発展史～」を開催中です。本展では、昭和21～39年（1946～64年）の旧昭和医科大学時代に焦点をあて、大学設立に関する行政文書や大学施設増築に関わる図面などを展示し、専門学校から大学へと、旗の台地域とともに発展してきた歴史を紹介しています。皆さまのご来館を心よりお待ちしております。

【開館】

火曜日・金曜日

13:00～15:00（予約制）

【開催期間】

2025年10月3日（金）～

2026年8月28日（金）予定



いつも探しています！大学や病院の歴史資料

皆さまのご自宅や勤務先に、昭和医科大学の歴史に関する資料はございませんか。

資料は「上條記念ミュージアム」にて大切に保管・展示をさせていただきます。

これらの品々は「至誠一貫」の精神で歩んできた100年近くに及ぶ昭和医科大学の歴史を後世に伝える貴重な資料となる可能性があります。皆さまからのご連絡をお待ちしております。

お問い合わせ 昭和医科大学上條記念ミュージアム

電話：03-3784-8031

メール：museum@ofc.showa-u.ac.jp



リカレントカレッジ事務室

令和8年度 昭和医科大学リカレントカレッジ 秋期プログラム受講生募集中

リカレントカレッジでは、令和8年度秋期プログラム受講生を募集しています。定番の講座から新規開講講座まで多彩なプログラムを取り揃えております。今回は10月に開講する講座をご紹介します。資料請求・講座申込はリカレントカレッジホームページをご覧ください。次号では11月以降に開講する講座をお知らせします。 ※定員に達し次第、受付を終了いたします。

【10月開講】申込締切：9月20日（日）

プログラム名	講師（敬称略）
もうドラッグストアで迷わない！かゆみに効く市販薬・漢方薬	赤川 圭子 他
歴史に隠れた病気を探る	小川 良雄
ハリウッド式！大人から始める初めてのボイストレーニング～楽しく歌って、心も身体も元気になる～	金丸 明日香
関節痛の予防・軽減のセルフケア～正しい姿勢で身体の不調を減らそう！～	田村 将希 他
生活習慣を見直して健康寿命を延ばそう	小風 暁
がんで大切な家族を亡くしたあなたへ～遺族ケアガイドラインと悲嘆のケア～	幸田 るみ子 他
宇宙教育のすすめ（基礎・理論編）～身近にある宇宙・天文技術の教育事例～	和田 直樹
宇宙教育のすすめ（実践・応用編）～身近にある宇宙・天文技術の共有～	和田 直樹 他
初心者のための筋トレ講座～正しいトレーニング法と身体のケアについて知る～	蜂須 貢 他
はじめての薬膳茶レッスン♪美味しく、簡単に、綺麗になろう～和洋中の薬膳ハーブを味わい・楽しもう～	大塚 まひさ
科学の力で真実を解き明かす！～城教授による捜査科学講義～	城 祐一郎
今こそ見直そう！大人の口腔ケア	山本 松男 他
動きやすさを追求する！3日間実践講座～多関節アプローチで膝の動きを変える～	岡山 知世
60歳になったら始めよう！姿勢・歩き方実践講座	岡山 知世
「身体の変化」を楽しむランニング講座～運動の仕組みを楽しく学び、前向きな運動習慣化を！～	黒川 遼
最前線から見る宇宙の未来～最近の宇宙・天文ニュースから～	和田 直樹
古代の暮らしからひもとく 人の身体とウェルビーイング入門～触れて、食べて、作って、整える 体験型5回シリーズ～	岡村 真由 他

リカレントカレッジでは講師を募集しています。同窓生も講師として活躍中です。ご希望の方は、問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ 昭和医科大学リカレントカレッジ事務室

電話：03-3784-8143

メール：recurrent@ofc.showa-u.ac.jp



昭和医科大学学士会

第35回昭和医科大学学士会シンポジウム 「新生児医療のパラダイムシフト」開催

2026年度のシンポジウムを開催（公開）いたします。公開URLは昭和医科大学学士会ホームページにてご案内いたします。是非ともご視聴ください。

【会期】2026年8月22日（土）～9月24日（木）公開

【開催形式】オンデマンド配信

【コーディネーター】水野 克己 教授

昭和医科大学大学院医学研究科 小児内科学分野	
演題	演者
1) 在胎期間22～23週で出生した生育限界児の管理と転帰：本邦における新生児管理の特徴	埼玉医科大学総合医療センター小児科（新生児部門）教授 難波 文彦
2) 周産期脳障害に挑む ～幹細胞療法が拓く新たな治療パラダイム	名古屋大学医学部附属病院総合周産期母子医療センター診療教授 佐藤 義朗
3) DOHaDからみた新生児管理	昭和医科大学江東豊洲病院小児内科准教授 中野 有也
4) 母乳バンクの役割	昭和医科大学大学院医学研究科小児内科学分野教授 水野 克己

お問い合わせ 昭和医科大学学士会

電話：03-3784-8074

メール：gakushikai@ofc.showa-u.ac.jp



昭和医科大学医師会事務局

昭和医科大学医師会 令和7年度アワード 「Young Investigator Award」を選出

昭和医科大学医師会主催の表彰制度である「Young Investigator Award」の令和7年度表彰が行われました。

Young Investigator Awardは、若手医師による研究の活性化を目的とし昭和医科大学医師会により35歳以下の昭和医科大学医師会員を対象に募集したもので、優れた原著論文を発表された医師1名が選出されました。今後も研究活動の活性化、研究成果の発展につながることが期待されます。



相良博典会長と豊島大貴先生

Young Investigator Award

※敬称略・受賞当時

昭和医科大学横浜市北部病院循環器内科 豊島 大貴

チャリティーバザー物品ご寄付のお願い

来たる10月10日（土）に、第66回旗ヶ岡祭（開催日：10月10日（土）～11日（日））企画の一環として「第34回 昭和医科大学留学生医療支援バザー」が開催されます。バザー物品は、例年保護者の皆様のご協力を中心となっております。

この売上げは経費を除いて「留学生医療基金」に積立てられ、留学生の医療費の一部負担・国際交流会などに使われております。今年も、保護者の皆様に物品ご寄付のご協力をお願い申し上げます。バザー用品のご寄付は、昭和医科大学生活協同組合が窓口として受け付けております。ご協力の程、よろしくお願いいたします。

昭和医科大学第66回旗ヶ岡祭実行委員会
委員長 黒田 天都 総務局長 栗山 香凛

※衣類、雑貨等は全て新品・未開封品あるいは新品同様のものに限定させていただきます。衣類の場合はクリーニング済のものも受け付けております。
※食品は賞味・消費期限が3ヶ月以上先のものでお願いいたします。
※物品送付による送料に関しましては、お手数ですがご負担いただきますようお願い申し上げます。
※災害等により旗ヶ岡祭が中止になった場合、ご寄付いただいたものはこちらで処分させていただく形となりますので、ご了承いただきますようお願い申し上げます。
※日時の指定ができる場合は、平日午前中に指定いただきますようお願い申し上げます。

送 付 先：〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8
昭和医科大学生活協同組合 バザー係

問合せ先：旗ヶ岡祭実行委員会総務局
hatasai.soumukyoku@gmail.com
昭和医科大学生活協同組合
03-3788-2322

2026年
10/1未締切
（消印有効）



昭友商事は
皆様をあらゆる面でサポートし、
貢献いたします。

昭和医科大学オリジナル商品の販売

NLローソン・タリーズコーヒータウン運営

各種旅行・イベント手配業務

アウトソーシングサービス ほか

昭友商事株式会社 〒142-0064 品川区旗の台1-8-16



総務部

昭和医科大学サポート寄付制度にご協力いただいた方

【創立100周年記念事業募金】

同窓／小林 真一 様（医学部・43回生）、小野 智裕 様（医学部・74回生）、田中 明彦 様（医学部・65回生）、野中 直子 様（歯学部・8回生）

職員（50音順）／上野 洋一 様、大石 竜 様、押野見 和彦 様、齋藤 州 様、齋藤 範 様、竹島 亜希子 様、山本 登 様
一般／原 健太 様、株式会社ジェイ・シー・ティ 様、三枝米穀店 様

【教育研究協力資金】

父母／杉山 進様^{※1}、医療法人 福生会 様

【医学部への寄付】

父母／茂木 貴雄・千夏 様

一般／医療法人社団えにし 様

【富士吉田教育部への寄付】

父母／町田 隆志 様

【昭和医科大学病院への寄付】

一般／大川 泰代 様、アット・ファシリティラボ株式会社 様

【昭和医科大学烏山病院への寄付】

職員／烏山病院 患者家族会（あかね会） 様

【各クラブ・学生会への寄付】

父母／杉山 進 様^{※2}

同窓／稲垣 雅彦 様（薬学部・16回生）

職員／龍 家圭 様

※収納期間：2026年4月1日～5月31日

※1 収納期間：2023年10月1日～11月30日

※2 収納期間：2025年10月1日～11月30日

※本学広報媒体への掲載にご同意いただいた方のみ掲載しております

創立100周年記念事業募金
ご支援のお願い

本学は令和10年に創立100周年という大きな節目を迎えます。この節目を未来への新たな出発点と捉え、教育・研究・診療体制の一層の充実を目指した記念事業を展開しています。

厳しい社会情勢の中ではございますが、本学の未来づくりへのご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

昭和医科大学 100周年
記念事業募金サイトはこちら

今号の表紙写真

表紙は、5月31日に行われた「第16回学祖祭」懇親会のコマから。当日は応援指導部による力強いパフォーマンスが披露され、会場を大いに沸かせました。本学では、クラブ活動や課外活動も活発に行われており、学部や学年を越えた交流を通して、豊かな人間性や協調性を育てています。今後も学生一人ひとりが充実した学生生活を送れるよう、教育環境・生活環境の充実に努めてまいります。



SHOWA MEDICAL UNIVERSITY NEWS

昭和医科大学新聞 通巻第632号

August 2026 令和8年8月1日発行

vol. 23

[年6回発行]



学校法人 昭和医科大学

(03) 3784-8000

〒142-8555

東京都品川区旗の台1-5-8

【本誌について】

発行人 小口 勝司

編集 総務課 大学広報係
(03) 3784-8059
press@ofc.showa-u.ac.jp

ご意見やご感想、各種情報をお待ちしています。

制作・印刷 株式会社ダイヤモンド・グラフィック社



【各種募金・寄付について】

企画課 (03) 3784-8387

【学事について】

学務課 (03) 3784-8022 (旗の台)
(0555) 22-4403 (富士吉田)
(045) 985-6503 (横浜)

大学院課 (03) 3784-8793

入学支援課 (03) 3784-8026

! 個人情報の取扱いにご注意ください

昭和医科大学新聞には、学生・職員および学外関係者の氏名や所属等を掲載している場合があります。掲載に際しては、学校法人昭和医科大学が個人情報を広報活動に利用することについて説明し、同意していただいております。原則として、その他の目的に個人情報を利用することはできませんので、取扱いにはご注意ください。